

インターカルチャー

INTERCULTURE

NO.114

2007年11月号
NOVEMBER



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

運動会初の雨天日程変更

玄関コンサート

留学報告

卒業生教育実習で奮闘

APAC 野球優勝



10月17日運動会の綱引きでロープが切れた瞬間 (撮影: 合志智子)

国際学校（インターナショナルスクール）との交流

大迫弘和
SIS 校長

初代校長の藤澤皖先生がインターカルチャーの本号で書いてくださっていますように、SIS は 1991 年の開校の年から一貫して「国際学校」としてスポーツや音楽の対外交渉活動を続けてきました。その理由は言うまでもありませんが OIS との合同活動を行っているからです。日本の一条校（学校教育法第一条に基づき正規の「学校」として規定されている学校）の中で SIS のように国際学校のリーグに参加している学校は勿論一校もありません。

開校当初は「関西リーグ」という名称の名古屋以西の国内の国際学校及びアメリカンスクールのリーグに参加していましたが、藤澤先生がお書きの事情中、「APAC」の一員になりました。

そして今回、先日生徒・保護者の皆さんへのレターでお知らせしましたように、APAC 参加校が現在の 6 校から 12 校へ拡大するのを機に、APAC の参加を 2008 年 6 月をもって終了し、今後は新たな形で国際学校間でのスポーツ・芸術交流を実施することにしました。

APAC メンバーとしての活動は、勿論大きな教育成果をあげましたが、同時に他校との学校規模の違いゆえ、年々他校と歩みを共にするのが大変になってきているのもまた事実でした。分かりやすい例で言えば、APAC 設立当初はそうでなかったのですが（なぜなら APAC 6 校の中でその誕生に一番力を発揮したのが OIS だったという事情もあり、本校の実情にあった形で内容が組まれていました）、次第にその内容が変化し、男女で同一種目を同時期に、という形にある時期からなりました。他校は広いフィールドや体育館を持ち、サッカーでもバスケットボールでも、同一時期に男女が練習を行うことは何の困難もありません。ところが本校は残念ながら、それがかなわない状況ですので、私は箕面市の教育委員会に足を運び、市の施設を優先的に借用させていただくことをお願いしました。教委は非常に好意的に私のお

願いを受け止めてくださいました。SOIS セーバーズの生徒たちは、そのように箕面市の施設を使わせていただきながら、APAC のトーナメントに向かって練習を重ねました。

その他、いつも各ご家庭にご協力をいただいていたホームステイの確保のこと（APAC はホームステイによってその国の文化・生活様式を学ぶ、ということが出発当初から大きな教育目標として掲げられていました）、トーナメント参加による授業欠席のこと、生徒数の少ない本校においては競技の時期を出来るだけ工夫して設定していかなければ集団スポーツが成立しないこと、そして決定的だったのは APAC の拡大方針によって、これまで以上にメンバーとしてのノルマが増えること。それらを考え合わせ、今回の決定を見ました。

ただここで明言したいのは、今回の APAC 脱退は、本校の国際学校としてのスポーツ・芸術活動が後退することは意味しないということです。

「校長先生、私たちはもう今までの APAC のようにアジアのインターナショナルスクールと交流することはできないんですか？」

9 年生のある生徒が私に尋ねました。「そんなことはないよ。今までと同じようにアジアのインターにお邪魔したり、こちらにお招きしたりは必ずしていきますよ。」

「よかった。ありがとうございます。」生徒の顔は輝きました。

「じゃ、校長先生、思い切って、ヨーロッパのインターとの交流はどうでしょう。」

「うーん、それはなかなか難しいかな。ヨーロッパはヨーロッパで近隣の数カ国のインターがグループを作って交流したりしているんだよ。」

「そうなんです。遠いと時間もお金もかかるって分かります。やっぱりアジアの中で考えていくってことになるんですね。」

2008 年 9 月から、SIS の国際学校としてのスポーツ・芸術対外活動は装いも新たに、生徒たちにとってより満足度の高

い、そして教育という視点からはこれまで以上に多くの教育的意味を実現できる、そして SIS の学校としての体力に則した活動として、再出発します。

APAC の拡大方針ということを機に、このような選択をしましたが、この決定は決して外発的なものではなく、本校の教育の充実のための内発性を持った決事です。外的要素あるいは環境の変化に柔軟に対応し、結果として学園の教育の充実に繋げていく。SIS はこれまでそのようにして歩んできた学園です。今回もまたそのようになるでしょう。

本校の歴史を今一度振り返るなら、SIS の国際学校としての活動は、OIS との合同活動という前提の中、日本の高体連や中体連には加盟できないという状況を逆手にとって、国際学校としての道を切り開いたのです。

本校は、これからも国際学校、より厳密には日本でたった一つの日本型国際学校として前進していきます。



千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行動に責任を持ち、よい人間関係を維持していく能力が、生徒各自に備わっていると信じます。この考えにもとづいて、次のような行動の目安がつくられています。

<5つのリスペクト>

自分を大切にする

他の人を大切にする

学習を大切にする

環境を大切にする

リーダーシップを大切にする

運動会 初の雨天 日程変更



恒例の運動会は10月8日(月)に開催予定でしたが、残念ながら雨のため日程変更になりました。パフォーマンスは10月10日(水)のLHRを使って実施されました。各学年が練習の成果を発揮し、すばらしいダンスとチームワークを見せてくれました。この日はパフォーマンスだけでしたが、とても盛り上がりました。競技の方は10月17日(水)に6時限目まで短縮授業を行った後、実施されました。今年の学年色は6年黄色、7年青、8年紫、9年緑、10年黒、11年赤、12年オレンジでした。最初はドッジボール、フリスビー、インターセプターをHS、MSに分かれて行いました。続いて「二人三脚リレー」、「玉入れ」という新種目も加わった競技の部で、全員が力を競いました。通常の運動会なら午前と午後行う競技を、2時間半ほどで行ったため各競技は短縮版でしたが、必死でがんばる姿や熱い声援、生徒会が中心となって進めた競技の準備などいずれもすばらしく、とても充実した運動会となりました。今年の優勝は中等部が8年、高等部が11年でした。



玄関でコンサート

John Secomb

Music Department Coordinator

The Genkan concert series occurred in the week Oct 29th – Nov 2nd.

Monday, October 29

11:10 am. HS Concert Band

Wednesday, October 31

9:00 am. HS String Ensemble / HS Wind Ensemble

Thursday, November 1

12:30 pm. MS Performance Band

1:00 pm. MS Performance Strings

2:10 pm. HS Concert Strings

Friday, November 2

9:15 am. HS Chorus

1:00 pm. MS Chorus and Intermediate Strings



＜留学報告＞

イタリアで過ごした一年間

小島伸彦

高等部2年

僕は、2006年10月から2007年6月までイタリアに留学していました。本当は9月に出発する予定でしたが、おそらく、イタリア領事館のミスのおかげで、出発が一ヶ月遅れてしまいました。しかし、この一ヶ月のおかげで「早く留学に行きたい」という気持ちが強くなり、留学への不安が全くなくなりました。そして僕は、ホストファミリーのいる南イタリア、アドリア海側の街BARI（バーリ）に到着しました。空港にはホストファミリーがすでに迎えてきてくれていました。そこでまずびっくりしたのはイタリアの挨拶。とりあえずおじぎではなく握手をして、そのあといきなりほっぺとほっぺをくっつけられ「チュッチュッ」と音をたてられました。これがイタリアの挨拶でシャイなぼくには慣れるまで結構大変でした。

イタリアに着いた時には、もちろんすでに学校では新学期がはじまっていたので、とりあえず留学機関の人に連れられて学校に向かい、そこで初めて学校のみんなと出会いました。僕の学校は、一学年に15人（イタリアの高校は5年制）しかいない、本当に小さな学校だったので、僕が学校に着いたとき休み時間だったこともあり、その日出席していた生徒には全員挨拶したと思います。彼らからしたら本当にアジア人がめずらしいみたいで、とても歓迎してくれました。僕の学校は、主に言語をよく勉強する学校だったので、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の授業などがあり、他には、イタリア語（国語）ラテン語（古典）数学、科学、宗教学、音楽、体育、地理、歴史の授業がありました。もちろんイタリア到着当時の僕の自己紹介がやっとならなかったイタリア語力では授業なんて解るわけもなく、英語と数学と体育以外は授業を見学しているような感じでした。クラスメイトのみんなは僕の名前をすぐ覚えてくれましたが、僕はみんなの名前を覚えるのに正直1ヶ月くらいかかっていたと思います。3ヶ月くらいたつと、なんとなくイタリア語がわかってきて、スペイン語とフラン

ス語の授業を、1年生のクラスに行って一緒に勉強させてもらうようにしました。もちろんすでに、みんなの名前も覚え普通に遊びに行ったりしていました。みんな陽気でたまにうっとうしいけどなんだか憎めないおもしろい子達でした。

ある日、みんなで街へ遊びにいった友達に、僕は、通行人に「あー、中国人（向こうの人からしたらアジア人は全て中国人と考えている）」とかわい言葉で表すとこんな風にいわれ、髪をひっぱられました。あまりにフレンドリーだったので僕は友達の友達なのかと思いましたが、あとで聞いてみると普通に現地の不良でした。髪をひっぱられたのは、その日だけでしたが、中国人と遠くから叫ばれるのは日常茶飯事でした。「俺は日本人じゃ」と思いつつも最初の方は結構こたえ、若干ホームシックになりましたが、イタリアサッカーリーグのセリエAで、カタール所属の森本選手が見事得点し、イタリア中の話題になり、友達から「森本スゲーやん！さすが日本人」といわれすごくうれしくなりました。この時から、たとえ「中国人」と不良に言われても、まったく気にせず流せるようになった気がします。しかし、やっぱり彼らからするとアジア人は下に見られていると思うと少し残念です。

僕は留学中に2回ホストファミリーをかえなければなりません。しかし、ラッキーなことに学校は変わりませんでした。一つ目のホストファミリーはみんな本当に優しく英語もしゃべれたので、かなりイタリア語を僕に教えてくれました。ホストマザーは料理がとても上手で、イタリアのマンマの味を十分堪能できました。車で長さ1メートルのピザを食べに、ナポリまで連れてってもらったこともあり。二つ目のホストファミリーはクラスメイトのミケーレの家にステイさしてもらいました。彼はサッカー好きで一緒に学校の友達とフットサルしに行ったりしたし、ほかの



みんなもとにかく優しくすごく快適でした。このときすでに、イタリア語は日常生活ならある程度問題なく出来ていました。そして、三つ目のホストファミリーは緊急でした。ミケーレのおばあちゃんの容態が悪化し、僕が使っていた部屋に引っ越してくるということだったので、僕は出て行かざるを得なくなりました。そして、とりあえず留学協会のエージェントでもあり学校の教頭先生のうちにステイしてもらいました。先生は結婚していましたが、二人とも働いていて、子供はいなく、家では基本的に僕一人でした。ということで、逆に僕がカレーを作ってあげたりしたこともあります。ちなみに、カレーは大好評でした。

最後の方は一人で電車に乗って中心街へ行くことを教頭先生が許してくれて、行きつけの古着屋に結構通っていました。やっぱりイタリア人はフレンドリーなので店員さんとはすぐ仲良くなりました。ある日僕が、日本のファッション雑誌をもって行って、見せるとすごく気に入ってくれて、その雑誌を欲しいと言ってきました。ぼくは毎月新しい号がでる度に母に日本から送ってもらいそれをプレゼントし、店員さんはそのお返しに店の商品をタダでプレゼントしてくれました。ちなみに今度いきなり日本から雑誌を送るかとか考え中です。

帰国日前日には、学校みんながサプライズでお別れ会を開いてくれて、感動しながらその日は夜遅くまで遊びました。そして当日、僕の便は朝早かったのですが、ホストファミリー以外にもミケーレを初め、前日一緒に遊んでいた友達も半分寝ぼけながら見送りに来てくれました。もちろん達成感もありうれしいけれど、せつかくできた友達と別れる

という悲しい気持ちもありすごく複雑でした。学校のスロヴァキアへの修学旅行とか、ほんとうに楽しかったし、何よりみんなと行けて本当に良かった。まあまた大学入ったら会いに行くからその時はよろしく！

最後に、僕のあこがれだった国「イタリア」への留学を留学前、留学中、留学後にサポートしてくださった栗原先生を初めお世話してくださった先生方、日本の家族、友達に感謝したいです。本当にありがとうございました。

Grazie a tutti ciao……

思い出いっぱいの留学生活

宮村恵理

高等部2年

私は2006年の夏から2007年の夏までアメリカのテキサス州の西の端の人口4000人のDenvercityと言う町から車で十分離れた草原に立っている家にホームステイしてきました。到着前は自分の英語力で通じるかどうか、学校に着いていけるかどうかとても不安でした。長いフライトの後、向こうのLubbockという町の空港につくとCowboy Hatをかぶったhost dad、ピンクのTシャツを着たhost momそして、もう一人の中国からの留学生Christyが“Welcome to Texas, Eri!”と書いた大きな紙を持って出迎えてくれました。

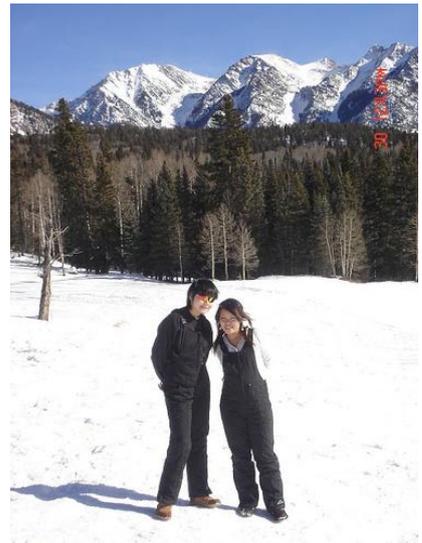
空港についた時に預けた大きな荷物が、着いていなくてとても大変でした。結局荷物は2日間ぐらい届かないままでした。着いた日に、日本料理屋さんに連れていってくれたり、次の日の服ないからって買い物につれていってくれたりして本当に最初からすごく親切にしてくれました。空港のある町からは1時間半ぐらいかかりました。家に着くと、馬19匹と犬5匹、そして一つ年上のhost brotherのColbyが出迎えてくれました。家の周りには、1・2軒建物がぼやけて見えるの以外は、ピーナッツ畑と草原と砂地が広がっていました。家にはインターネットもなく、テレビもMTVなどの音楽番組は大体ブロックされていて、家のルールも厳しく、最初にhost dadとmom説明してくれた時は本当に愕然としました。

出発が遅かったので学校もすでに始まって数週間たっていてクラブにも入れ

ないと言われて最初は友達どうやって作ろうと思って本当に不安でした。学校はSISと同じぐらいの大きさで、メキシコの国境から比較的近い所だったので、生徒の半分以上がメキシコ人で、学校ではみんなSpanishと英語半々ぐらいで喋っていました。行った当初”Tokyo Drift”っていう日本が舞台の映画がはやって、みんなすごい日本人大好きで興味を持って話しかけてくれました。Host Brotherは違う高校に通っていたんですが、Christyとは一緒だったので大分心強かったです。Marching Bandのクラスに入っていたので、footballのシーズン中は金曜日の放課後は毎週夜遅くまでかかる試合に行くので、行っているうちに友達もだいぶ増えました。

毎週日曜日と水曜日には、40分離れた町の教会にいきました。Host dadは元牧師さんで家ですべてが神様中心に回っていたので、キリスト教を知らない私にはとても刺激的でありましたが、最初は教会に行くたびに、本当にみんなが心から信じてる者を全然知らないんだってちょっと疎外感を感じました。でも、あまり考え込まない性格なのでホームシックにはかかりませんでした。

私のとった10年生の授業は宿題のあまりなく、家ではインターネットもないし、テレビも好きじゃないので、家事の手伝いと犬の世話をし時間をつぶしていました。host momは青少年保護監督官をやっている忙しく、host dadも家には居ましたが馬の世話で頻繁に外に居なきゃ行けないし、Christyは12年生だったので毎日勉強が大変で、Colbyは夕飯の時まで帰って来ないので、みんな忙しかったから、暇だから手伝うと本当に感謝されてやって気持ちよかったです。ChristyもColbyもフレンドリーで、二人ともすぐ仲良くなりました。Christyは、日本人が大好きでいつも日本の話をしてしてくれました。二ヶ月ぐらいたって、もう生活に慣れてきた時に、友達と遊びに行っても良い？と聞いた時に、恵理はまだ15歳だから駄目だよ。って言われた時には、日本が恋しくなりました。結局何年間もHost Familyが知ってる教会の子とぐらいいしかあまり遊びには行けなかったです。あのときは、もっと厳しくない家族が良かったなと思いました。今振り返ると本当に大切にされてた



んだなと思います。いつのまにか教会に行くのにも苦じゃなくなり、友達ともすぐ仲良くなり楽しくなっていました。それに友達とあまり遊べない代わりに家族では、Thanks givingにはDallasで一週間過ごしBasketballの試合や遊園地に連れて行ってくれて、Christmas休暇にはColorado州DurangoやOklahoma州に行き馬が引くソリに乗ったり、ジェットスキーをしたり、休日にもNew MexicoのRoswellやRuidosoにCowboy showやエイリアンの博物館に連れて行ってくれたり、帰ってくる前の夏休みには、Christyが今通ってる大学を見にFort Worthに行ったり、CapitalのAustinに行ったり、Sun Antonioに行つてThe Alamoを見たりしました。他にも教会からKansas cityに行ったり、たくさんいろんな所に連れて行って、いろいろな物を見せてくれました。

3月の私の誕生日には私がずっとほしがってた、犬をくれました。わざわざ保健所から私が好きなミニチュアダックス引き取ってきてくれたんです。まさか犬をもらえるなんて思っていなかったから本当に感動しました。Christyも誕生日が近かったので、ずっとほしかったAlaskan Huskyの赤ちゃんをもらってました。それからは、本当に毎日私とChristyで餌をあげたり、行かなくても良い散歩に行ったり、シャンブーしたり、一緒にプール入ったり、帰ってくるまで毎日犬と一緒に寝て本当に良い思い出になりました。どうにか日本に連れて帰ろうと頑張ったんですが、親に許可をもらえず結局仲良かった友達に引き取ってもらいました。

振り返るとあつという間の留学でしたが、きつとこれからずっと連絡を取り合うぐらい親しい友達も出来、本当に私を娘の様に接してくれる Host Family にも出会い、願っても絶対もう体験できないルールに囲まれた田舎での生活も経験し、宗教の大切さも学べ、そしていかに自分が恵まれてるかもしれない、本当に留学に行って悔いは全くないなと思えるぐらいたくさんの事を得たと思います。日本で一年間支えてくれた、先生、友達、そして家族、本当にありがとうございました。

アメリカでの貴重な留学体験！！

守茂山恵里
高等部2年

私は去年の8月から今年の6月まで IF という留学団体を使って、アメリカの一番南にあるテキサス州に10ヶ月留学していました。この留学は悩みに悩んで決めたことなので行くっていう時には、最終の応募にぎりぎり申し込みました。そのわりには Host Family もすつと決まって安心でした。アメリカに行く前はテキサスって Cow Boy とか砂漠しかないイメージだったけど行ってみるとそんなこともありませんでした。私が行った Tomball という町は、そこまで田舎でもなく道路の端にはお店が並んでいた町だったけど、やっぱり車がないと生きてはいけないなあというところでした。

留学する日、あんまり緊張もないまま家族と1週間だけアメリカに行ってきますって感じで別れました。飛行機でも実感がないまま Dallas に着きました。そこから Houston まで1人で乗り換えたとたんなんとなく実感がわいてきました。その時の気持ちを表すとワクワク、楽しみというものしかありませんでした。空港に着くと一目でアメリカ人だなんてわかる Host Family がすごい笑顔で迎えにきてくれました。私の Host Family は50歳の Nana (おばあちゃん)、Vicky とその孫で10歳の Sister、Jessie そして2匹の犬でした。空港から家までは1時間半ぐらいだったのですが、私はすごく疲れていて途中爆睡してしまいました。私は次の日から学校があったので朝、体が疲れていながらも早く起きて学校にいきました。時間割とかを決めるのに時間がかかるみたいだったので、明日もう一回来

てくださいといいその日は何もせずに Nana と帰り Wal-Mart という大きいスーパーに行きました。そのスーパーはすごく大きくアメリカに着きたての私はすごく驚いたのを覚えています。最後には Wal-Mart は Jessie とはしゃぐお気に入りの場所でした。

その次の日やっと時間割を決め授業に参加！！私の行っていた学校はとて大きく全校で3000人というマンモス校でした。廊下では皆が立ち止まって Hug とかして混むのでまるで梅田のビックマンみたいでした。1日目はできるだけ色んな人に話しかけて、皆で Lunch を食べることもできました。その時にまた明日も Lunch 一緒に食べよう！と言われ泣きそうな程嬉しかったことを覚えています。始めのころは授業も全くわからず変に焦ってしまい色々辛い思いをしました。英語で授業やらテストやら宿題もいっぱい。けれど私にはまだまだ時間があると思いきやそれからは焦らずに授業を受けることができました。それに先生方も皆優しく接してくれるので良かったです。友達も徐々にいっぱいできて毎日学校がすごく楽しかったです。私がとっていた授業の中で一番のお気に入りの Band でした。Band では Competition とかでメダルをもらったりと、Concert では皆で力を合わせていっぱい練習しました。Band Member は皆仲良く Family って感じでとても楽しかったです。特に Band の皆で行った Spring Trip は色々なところを観光したり遊園地に行ったりと、とても楽しかったです。

Host Family はという2人ととても優しい人で週末には Jessie と Shopping mall やら映画館やら行って楽しみました。Nana は仕事をやっていたので週末疲れているせいもありあまりどこにも行かなくて暇だったので最後の方は毎週仲の良い友達の家に行ってお泊りしていました。一時 Jessie と喧嘩が多かった時以外は特に Nana と喧嘩せず仲良く10ヶ月過ごすことができました。アメリカで一番楽しかった行事はやっぱり Christmas でした！！その1ヶ月前から Nana が欲しい物を List にしてちょうだいとか言っていたけれど私は何を書いたらいいかわからず何でも良いつて言っていました。Christmas Eve は Host sister とかと



ケーキ焼いたりクッキー作ったりですごく楽しかったです。当日は親戚15人くらい家に来て Party をしました。その時驚いたのがプレゼントの数！！Christmas Tree の下には多分30個以上のプレゼントが置いてありました。それを Jessie と開けるのが楽しくて、毎々がこんな楽しい Christmas だったらいいのと思えました。アメリカでは色々な行事他にも Halloween や Thanks giving day などたくさん楽しい行事を体験することができました。

正月はとてつもなく楽しくなかったけど・・・。なんか皆カウントダウンとかの前に寝る人もいっぱいいたし、正月はトイレ掃除をした記憶しかありません。そこは日本が恋しかったです！！こんなに楽しく行事を過ごせたのも Host Familyのおかげだしすごいありがたく思っています。あとアメリカにいて楽しかったことは、1月にあった New York Trip！！

それは IF の団体で久しぶりに集まったの旅行だったのですが、それがまた楽しくて。おたがいのこといっぱい話したりしていたら夜も寝られず。New York では色々なところを観光にもいけたし、Washington では Cruise Party もありすごく充実した1週間でした。その時皆と別れるのは辛かったけどまた6月に空港で話そう！ということでバイバイしました。

4ヶ月たった今でもこんなだけことが思い出せる、そしてアメリカの留学のことは話し出したら止まりません。これも本当にいっぱい協力してくれた Host Family とかいつも一緒に笑っていた友達とかのおかげだと思います。この10ヶ月初めは辛いこととかもあって日本にしょっちゅう帰らなくなったりしたけど、それを気遣ってくれた Nana や Jessie、そしていつも一緒に笑ったり遊びにいったりした大切な友達、彼らはとてもかけがえのないものだ

思います。今まで何をすることも頼っていた親がいない10ヶ月、どれほど私は彼ら家族に甘えていたことが分かりました。今アメリカから留学を終えて分かることは英語力をはじめメンタル的にも強くなり一回り成長して日本に帰ってくる事ができたということです。そして何事にも挑戦し、諦めなければいつかは辛いことも乗り越えられ、楽しい物になるということを知りました。このアメリカで過ごした10ヶ月は今までの中で一番濃かった年だと思えます。この限られた10ヶ月の中で貴重な体験をたくさんできたこと、そして異文化の違いをととても近くで感じられたこと、私はとても幸せ者です。そして、これから私ができることはこの貴重な体験を実際の生活に役立てていくことです。本当にこの貴重な10ヶ月を過ごせたのも、私を支えてくれた皆のおかげです。離れていてもいつも励ましてくれてそばにるように感じられた大切な家族、そして皆さんのメールをくれた友達、10ヶ月他人の私を本当の家族と思って接してくれたHost Family、留学の手続きをしてくれたカウンセリングの先生方、留学を通して色々な人にお世話になったことをとても感謝しています。本当にありがとうございました。

留学先ではなんと12年生に

島 育美
高等部2年

私は2006年の8月から2007年の6月まで、アメリカのミシガン州で交換留学をしていました。私が行ったのはマーシャルという小さい町でした。私のホームステイ先の想像は、視界一面コーン畑というのぞかな田舎を想像していたのですが、最初のホスト先は町のダウンタウンにすごく近く、私の想像していたものと



ぜんぜん違いました。最初のホストファミリーはおばあちゃん1人でした。離婚していて、3人の息子たちも、もう独立していて、1人で住んでいました。学校が始まる前に、学校のバスケットボールのチームに入るためのトライアウトをしたり、向こうでの私のAR(留学のお世話係の人)が他の留学生と一緒に旅行に連れて行ってくれたり、学校が始まる前からいろいろアメリカらしいことを経験しました。しかし、学校の授業選択に行ったときに始めて自分はシニア(12年生)にならないといけないことがわかりました。私はそのとき10年生でも日本語でも2つも上の学年の授業をとるだけでも大変なのに、英語となると授業についていけないんじゃないか? 友達はできるのか? とすごく不安になってきてしまいました。そこで私は、ARに相談しましたが、今までの留学生もみんなシニアになっているし、シニアにならないといけないと言われてました。私はそれでも不安で悩んでいると、ARが他の留学生に会わせてくれました。私と同じ学校に通う留学生は全員で9人で、その中でも私は最年少でしたがお互いにこれからの不安や、みんなシニアになると聞いて不安も少し和らぎました。学校が始まると、やはり最初のうちは勉強についていくのがすごく大変でした。必修は歴史、経済、英語、政治の4つで、それらは特に難しかったです。しかし、横に座っている友達や、ホストママに助けてもらいだんだん分かるようになりました。放課後は毎週火曜日と木曜日、バスケットボールの試合があって、残りは練習でした。私達のチームはそれほど強くなかったのですが、みんなプレーしたり、試合で他の学校に行ったりして、すごく楽しいものになりました。しかし、学校にも慣れてきたころから、ホストママとあまり会話もなくなり、問題も少しずつ増えていきました。ARに相談もしました。最終的にホストママの金銭状態でホストチェンジすることになりました。次のホストが決まるまでの間、私は学校校長秘書のお宅にクリスマスの1週間過ごさせてもらうことになりました。その家は結構田舎にあり、野生の鹿などが夜に観察できました。そして新しいホストが決まり、マーシャル校の先生で、

ホストダッド、ホストママ、2人のホストシスター、そして2匹のかわいい犬がいました。上のホストシスターはもう大学生で寮に住んでいて、たまに帰ってきました。下の1人のホストシスターは中学生でした。はじめはぎこちなくてどう接していいかわからないという感じでしたが、日が過ぎるにつれてお互いだんだん自然体で接していけるようになりました。春休みにはフロリダにあるダッドの姉のところに行き、すごく楽しい時間を過ごしたり、なんとJustin Timberlakeのコンサートにも連れていってもらいました。私はシニアだったので、promやsenior partyやclass nightに出たり、シニアでしかできないことをたくさん経験しました。そしてなにより向こうで卒業式にでられたのがすごくうれしかったです。学校の行事以外にも私はYFU tripに参加して、ニューヨークに行きました。その旅行は今までにした旅行の中でも特別に楽しかったです。世界から来た留学生が集まり、そこでたくさんの友達をでき、また絶対に会おうと約束しました。

この留学で、たくさん辛かったこともありましたが、それを支えてくれたのは日本にいる家族、友達でした。この経験をしたからこそ、家族や友達の大切さがわかりました。この1年間みんなの助けがあったからこそ私の留学は成功しました。手紙やメールで支えてくれたみんな。いつも心配してくれていた私の家族。相談や、授業選択のときにお世話になった先生方。この場をかりて私を支えてくれてみんなに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

人生の中でのすばらしい1年間

李 孝賢
高等部2年

私は、去年の夏から、今年の夏まで、TexasのDallasに自費留学していました。母の知り合いが、Texasに住んでいたもので、一年間お世話になりました。母の知り合いは、中国人だったので、ホストマザーとは、中国語で話していました。他の家族は、英語しか話す事ができなかったもので、会話は、英語が中心でした。

私が通った学校は、全米12位を誇る学校だったので、最初は勉強についていけるか、不安でした。学校初日、正



直あまり留学しているという実感がわきませんでした。すごく緊張していたので、うまく話す事ができず、不安でした。二時間目のPCの授業で、ある女の子が私に話しかけてくれて、それがとてもうれしくて、それをきっかけにいろいろな人に話しかける事ができるようになりました。がんばっている人と友達になって、ランチの時間も、みんなで楽しく過ごすことが出来ました。しかし、二週間位、学校になれず、自分から進んで学校へ行きたいとは思いませんでした。

学校へ行きたいと思うようになったきっかけは、バレーボール部に入った事でした。初めは、入部するかしないか迷っていましたが、いろいろな事を体験して、友達をいっぱいつくって充実した留学にしたいと思ったので、入る事に決めました。最初は、緊張して、おとなしかった私ですが、試合や、みんなとコミュニケーションがとれるにつれ、自然とありのままの自分を出す事が出来ました。バレーボール部に入っていた子は、みんなおもしろい子ばかりで、仲が良かったので、一緒に食事や、パーティーをしたりしていました。学期最後の試合で、勝つ事が出来ず、私は悔しくて、泣いてしまいました。その時みんなが集まって”Big hug～”と言って、hugしてくれたのが、とても印象に残っています。

それを機に、友達も更に増え、学校に行くのが楽しくなりました。私のホストファミリーは、イベントに積極的に参加する方ではなかったので、仲の良かった友達の家族が、イベントのたびに、私を家に誘ってくれるだけではなく、旅行へも連れて行ってくれました。学校でダンスパーティーや、ボランティアがあると、積極的に参加していました。

勉強面では、苦勞する事も多く、その中でも大変だったのが、Biologyの授業

でした。初めはテストがうまくいかなくて、悲しかったのですが、悔しい思いもあり、ESLの先生と、ホストブラザーの助けもあり、次のテストではとてもいい点がとれました。それがとてもうれしくて、ちゃんと勉強すれば自分もできるのだと自信ができました。私のホストファミリーは、忙しく、あまりイベント事に参加しなかった方だったので、仲の良い友達の両親が、イベント事、週末など、よく家へ誘ってくれてました。そのおかげでいろんな体験をする事が出来ました。私は、英語が完璧じゃなく、人種が違っても、本当の両親のように接してくれた事にととてもうれしく思いました。楽しい日々は、あっという間に過ぎていってしまいました。学校が終わる日が近づくにつれ、日本に帰りたくありませんでした。

学校最後の日、泣かないでおうと思っていたのですが、友達が「Shauai don't leave me.」って言われた途端、涙が止まりませんでした。友達、先生など全員に挨拶して、留學生活が終わりました。午後には、友達が Surprise party を開いてくれて、とてもうれしかったのですが、本当に学校も終わって、日本に帰ってしまうのだと実感しました。今でも Texas の友達と連絡をとっています。私は本当に Texas に留学できて、よかったと思います。うれしい事、悲しい事などもありましたが、英語が進歩しただけではなく、いろいろな人とめぐり合え、いろいろな事も学べました。人生の中ですばらしい一年を過ごせたと思います。日本で支えてくれた、家族、相談など、アドバイスをくれた先生達、友達みんながいたからこそ、悔いのない一年をすごせたと思います。本当にありがとうございました!!!

得がたい経験をした1年間

橋本光起
高等部2年

私は2006年の8月から2007年の6月までアメリカのMichigan州に留学していました。私にとってこの留学は、英語力を伸ばすだけではなくそのほかにも様々なよい経験を学ぶ機会となりました。

10ヶ月間の間、私はミシガン州のGrand Rapidsという町のあるホストファミリーに家族の一員としてお世話になりました。私のホストファミリーはごく普通の家庭で両親と私より一つ年下のシスターと六歳下のブラザーがいました。ホストdadとmomは自分たちで仕事を経営していて、momはドクトレーナーをして、dadはそのオーナーとして働いていました。また犬を預かることもしていたので、毎日いろいろな種類の犬に出会うことが出来ました。犬好きの私にとっては色々な犬と会えるのでとても楽しみでした。ホストシスターは最初、空港で会ったとき一言も話しかけてくれず少し心配していましたが、だんだん一緒に住んで行くうちに互いにどけあい仲良くなっていきました。ホストブラザーはとてもかわいくて、初めて会ったときからたくさんの質問をしてきて、私をほんとうの姉のように接してくれました。日本の家族では私は三人姉妹の末っ子でしたが、それとはまったく正反対で自分が一番年上で長女の立場になれたことはとてもよい経験となりました。そしてホストファミリーへの第一印象はとても活発で家族や教会での時間を過ごすことをとても大切にしている家庭だと感じました。

私とそのファミリーと一緒に住んでいたところはとても田舎で回りを見渡してみても、畑だらけでぼつぼつと他の家があるようなところで、車でしか交通手段のない日本とはまったく違う環境でした。家は2階建てで、庭はとても広くそこでは馬を3頭ほど飼っていました。また近くには森がありとても自然の多いところでした。

私が通うことになった学校は私立のクリスチャン学校で、4年前に出来たばかりの学校で、ホストシスターが創立当初から通っていた学校でした。その学校はとても少ない人数で全校生徒だけで40人ぐらいで私の学年は7人だけでした。先



生もたったの5人でクラスルームも5つぐらいしかありませんでした。あまりの小ささに初めはびっくりしていました。また私の学校はとても厳しいルールがあり、学校にはジーパンを一切着てきてはいけないとか文字が書いてある服も禁止で、そのほかにも生徒たちが不満に思うようなルールがたくさんありました。学校が始まる前から、バスケットボールのチーム練習に参加し初め、そのシーズンはバスケットボールのチームに入ることに決めました。学校での授業に関しては、クラスが少人数であったのでし授業でわからないことがあったらすぐに聞くことができました。友達もバスケットを通じてすぐにできました。

最初の3、4ヶ月は私の誕生日パーティーから始まり、クリスマスの頃までは楽しいことばかりで、ホームシックを感じる事は一度もありませんでした。またアメリカで生まれて、7歳前に日本に帰ってきた私にとっては、そこでの生活の思い出はあまりなかったもので、見るものする事がすべて目新しく見え、とても楽しい生活でした。けれども、その後、今までの楽しい生活が普通になってしまったのか、だんだんとホームシックになっていきました。いくらホストファミリーが私を家族の一員として接してくれていても、やっぱり日本にいる家族とは違うという思いから私はそんな簡単に言いたいことを言えずそれを自分自身の中で本当の気持ちを貯めていくことが多くなって行きました。それから毎日楽しい表情をしていたのが、悲しそうな表情をすることが多くなったのでしょうか。そのことから、ホストmomに何回かどうしたのかと聞かれることはあったけど、本当の気持ちを言えない自分がいました。今になって思えば、ホストmomも一生懸命私の気持ちを探って支えてくれようとしてくれていたのだと思います。

この留学を通じていろいろな楽しいことやつらいことがありましたが、学んだすべての事は将来自分のためにもなるだろうし、ほかの人にも伝えられる話であると思います。家族から離れて、自分でこのように生活するのは始めてだったのでとてもいい経験になったし、アメリカに住む人たちのことを自分なりに理解することができました。千里国際に入れたからこそ、このような留学経験ができたと思います。

また留学中、私を支えてくれたホストファミリー、日本での家族、友達、みんなにほんとうに感謝しています。ありがとうございました。

バンドでも大活躍

スウェット・ジョージ
高等部2年

僕はアメリカのアイオワ州のインディペンデンスと言う小さな街に1年間留学した。その街は人口わずか6000人程度で、いわゆる「田舎」だった。田舎というところはどこでもわりと地元を愛すると言う感情があるみたいだが、僕はそれが嫌いだ。アイオワ州に最初に着いた時に、知らないおばさんに「君たちはアイオワに来て本当にラッキーなのよ？」などと言われた時に、アイオワ州は本当に田舎なんだなと思った。

その後、ホストファミリーに会って、インディペンデンスという街に到着した時に、僕はホストファミリーの家より先に、学校のマーチングバンドの練習場に連れて行かれた。僕は留学に行く前に書いた自己紹介文に『音楽とは愛し合っている』と書いたので、現地の学校では、もう僕が着く前から僕がバンドに入ると決まっていたらしい。練習場についたら、それはもう100人くらいの…それも金髪ばかり。僕はその時初めて「ここまで来てしまった」という責任感と不安を感じた。

学校が始まったのは8月の中頃だった。僕は人見知りで、友達は始めあんまりいなかったが、バンドに参加していたので、その数はすぐに増えた。だいたい11月くらいからだだったと思う。たしか、その頃にバンドの旅行に行った時に調子に乗って、デッカイ黒人さんに怒られたのを覚えている。だが、その頃くらいからホストファミリーとはちょっと距離を感じてきた。ホストブラザーもシスターもあまり友達がなかったような気がする。それもあってか、僕が遊びに行こうとする度につまらないルールなどをつくり、行けなくしようとしていた。それでも遊ぶのが僕の使命だと思った。留学に行ってる上で、友達と遊ぶ事も立派な『学ぶ』と言う事である(留学でなくてもそう)。僕は最初ホストファミリーを見て、これがアメリカ



の家族なんだと思った。だが、友達と交流するにつれて、その微妙な違いを理解できたように思う。

僕がはじめアメリカ人に抱いていた印象はかなり異なるものがあった。最近、日本では『KY』という恐ろしい言葉があるが、それは場の雰囲気を理解できずにいる人に指す言葉である。これはアメリカにおいても同じで、その場の雰囲気を理解できない人はやはりみんなに嫌われていた。ただ違っていたのは、雰囲気そのものであった。決してハイテンションだったらいってもんじゃない。そんなわけねえだろ。

まあ、僕の留学の1年を簡単に振り返ると、バンドの1年と共に歩んだように思う。最初の方はマーチングバンドに参加したが、いてもいなくてもいいような役だった。その時の僕の立場そのものだったようにも思う。それがポップバンド(学校のバスケットやレスリングなどの試合のゲームとゲームの間に国歌を演奏するついでに、いろいろな有名なロックソング等を演奏するバンド)でギターを演奏して、だんだん前に出てきて、2007年になってからは、ジャズバンドにギタリストとして参加してその時にソロも弾かしてくれた。僕はその時に、必要とされている立場になったんだと実感した。その後、僕の参加していたバンドがアイオワ州でチャンピオンになった。その時はみんなでバカみたいに騒ぎはしゃいだ。それが本当に楽しかった。学校ではアSEMBリーで表彰されて、インディペンデンスの街を消防車の上に乗って走りまわった。気付けば僕もその人口6000人の地元を愛していた。

卒業生教育実習で奮闘

<教育実習>本当の意味での「卒業」

平林詩織第9期卒業生

大阪大学外国語学部国際文化学科日本語専攻4年

SISを卒業できてよかった。またSISに帰ってこることができてよかった。実習最後の日、みんなのパフォーマンスを見て、心からそう思いました。

新しい環境に馴染むのが苦手で、人見知りをしてしまう私にとって、母校とはいえSISでの教育実習は大学生活最後の関門でした。始まる前から不安ばかりが募り、実習が終わった頃に「楽しかった」と言えるかどうか自信がありませんでした。

そんな私の心を見破ってか、木村先生から私に課されたのは2日目から早速授業をすること。聞いたときは正直驚きましたが、こうなったらやるしかないと思い、腹をくくりました。SISにいた頃は学園祭実行委員、修学旅行委員など率先して前に出たがるタイプだった私ですが、教師として前に立つのは緊張の連続でした。初めて9年生の授業に行ったときのみんなの目が忘れられません。興味津々で、少し不安そうで、でも真っ直ぐ私を見つめてくる瞳。あとき「ごまかしはきかない。一生懸命やらなきゃ」と思いました。

3週間で9年生の2クラス、10年生の古文、合わせて3週間で18回授業をさせていただきましたが、これほど多くの機会を持って本当によかったと思っています。授業は反省点を数えればキリがなく、毎回終わった後は自己嫌悪に陥っていましたが、それでも「習うより慣れよ」という言葉通り、回数を重ねるごとに着実に何かを掴んでいる気分でした。10年生の古文はたった2回だけでしたがとても楽しく授業ができました。私は高校の頃国語がいちばん好きだったので、少しでも古文の面白さがみなさんに伝わっていれば幸いです。9年生の授業は最後まで難しく、試行錯誤の繰り返しでした。でもだからこそやりがいも大きく、国語の授業の意義について考えさせられる経験でした。

SISで教育実習をして痛感したのは、

先生方の生徒たちへの並々ならぬ愛情と教育への強い思いです。生徒主体のSISで、いかに生徒たちに自分で考え、行動させるか。普段は口にしません、SISの先生方は皆、生徒ひとりひとりのことを本当によく見ていらっやいます。生徒がやることに口出ししたいのをぐっとこらえて、時にハラハラしながら、自分で考え、失敗して大きくなっていく姿を見守る、そんな先生方の思いに教師の側に立って初めて気がきました。過保護になったり口うるさくなったりするのは簡単ですが、生徒たちのことを信頼して何も言わないのは難しいことです。そして生徒たちも、先生を信頼しているからこそ少し無茶なこともできるし、こぞというときは先生を見返すぐらい大きなパワーを発揮できるのだと思います。在学中には気付かなかったこのことに初めて気付けたことが、私の教育実習においていちばんの収穫であり、SISを卒業した意味となりました。

実習中支えてくださった全ての人に感謝します。卒業から6年経った今でも多くの先生方が私の名前を覚えてくださっていて、廊下ですれ違う度笑顔で「がんばってる?」と声をかけてくださいました。何人かの先生とは放課後、生徒だったときと同じようにいろんな話ができて嬉しかったです。研究授業には、予想以上にたくさんの先生方に来ていただいて、この上ないほど緊張しましたが、それと同時に先生方が自分のことを気にかけてくださっていたことを実感して感無量でした。講評にもありがとうございます。

そして、授業から帰ってくる私をいつも温かく迎えてくださった国語科の先生方。在学中も今でも、国語科はSISで私のいちばん好きな場所です。国語で教育実習ができたことを幸せに思います。先生方の授業もたくさん見学させていただきましたが、すっかり生徒に戻った気分楽しく授業を聞いていました。特に私の指導をしてくださった木村先生には、



的確で時に厳しいアドバイスと嬉しい褒め言葉、私を信用して最後の2日間を任せてくださったことに心から感謝しています。木村先生のおかげで、教壇に立つ自分に少しずつ自信が持てるようになりました。

そして、最後に生徒のみなさん。本当にありがとう。毎朝笑顔で私を迎えてくれた10-3のみなさん。最初は緊張してばかりだったけど、私の大学やSISでの話をしたとき、真剣に聞いてくれて本当に嬉しかったです。みなさんが書いてくれた色紙と、一緒に撮った写真は宝物にします。そして私の授業を受けてくれた9年生と10年生。私の拙い説明にも耳を傾けてくれ、下手な板書に耐えながら、私の質問には驚くほど感性の豊かな意見をたくさん言ってくれました。教師としては情けない話ですが、みなさんに助けられてばかりの授業でした。自分の意見をしっかり持ち、それを言葉にして表現できる力は、SISで学んでいるからこそ培えるみなさんの財産です。これからも大事にしてくださいね。

この教育実習で、私は本当の意味でSISを卒業できたと思います。来年は企業に就職しますが、この3週間の経験は決して無駄にはしません。また、SISにも遊びに行きますので、見かけたら声をかけてくださいね。本当にありがとうございました！

<教育実習> 自分を見つめなおした 3 週間

角田 瞳

第 10 期卒業生 大阪府立大学総合科学部人間科学科 4 年

教育実習の3週間。それは私にとって自分を見つめなおした3週間でした。自分がどんな教師になりたいのか、自分がどんな教師になれるのか、問い続けた日々だったと思います。SIS にはいろいろなタイプの先生方がいらっしゃいます。あたたかい雰囲気を持つ先生、独自のペースで生徒を惹きつける先生、楽しくみんなを盛り上げる先生…。その多様性がすてきだなと思っはいたものの、「じゃあ私は？」と考えると途端に迷宮入りしてしまいます。「どんな教師になりたいか」という問いは、自然に「自分は一体どんな人間なのだろう」という問題へとつながっていきました。

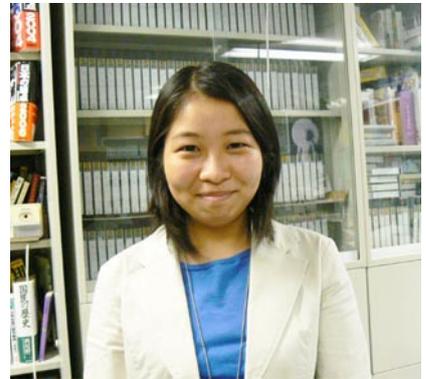
教師としての個性が問われる場面は学校生活のすべてに見られました。例えば授業であれば最低限なくてはならないことは单元ごとの目標ですが、それに加えて何を伝えたいのか定めなくてはなりません。またホームルームでは連絡事項を伝えることはもちろん、朝と帰りの 15 分間をどのようなものとしてとらえ、どんなことをするのか考える必要があります。ここには私の考えや思い、つまり「私自身」が反映されるのだと思います。それは授業やホームルームという決まった時間の枠を離れても同じで、注意をするときはもちろん、ただ「雑談」をしているときであっても「こういうふうにしてよかったのかな？」と自分を振り返ることが数多くありました。教師は、学習面や生活面において教育者としての役割を果たすことがまず求められますが、その上で、一人一人の生徒と向き合う、いわば人間同士のガチンコ勝負！（勝敗をつけるわけではありませんが）を続けているのだと思いました。教師見習いの私としては「教師」としてどのように対応すればいいのか試行錯誤している中、更に「私自身」も問われ続けるため冷や汗をかくことも多くありました。

3 週間の実習期間を終え、「自分がどんなカラーを持った教師になりたい（なれる）かなんてわからない！」というのが正直な感想です。でもそれでいいの

かもしれません。「十年以上教師をやっている自分だってまだまだそんなことはつきりわかっているわけじゃないんだから、あせらなくていいよ。そんなものだよ」と言ってくださった先生。毎日「自分探し」に格闘していた私にとって、ほっと肩の力が抜ける言葉でした。

そして少しゆとりを取り戻した私の頭に浮かんできたのは、出会った生徒の皆さん一人一人のことでした。だから今、この学校で学んでいる人たちに伝えたいこと、それは「先生はみんなが思っている以上に、一人一人のことを本当によく見ているんだよ。そしてどうすればあなたにとって一番いいのかを模索し続けているんだよ」ということです。これはよく注意される人であろうが、「僕／私って目立たないかな？」なんて思っている人であろうが、全く変わりがありません。もちろん 1 クラスに多くても 20 人少しという全体の人数の少なさもあるでしょう。けれど、SIS の先生方は授業で、ホームルームで、それ以外の活動で、もっと言えば校内ですれちがうだけでも、生徒一人一人のことを本当によく見ていらっしゃると実感しました。教師としての自分をいまだに模索しているとおっしゃってくださった先生の言葉はとても重く、教育という答えの出ないものに対して本当に真剣に取り組んでおられることが伝わってきました。先生方の生徒へのまなざしの深さは「元生徒」である私に対しても変わることはなく、このあたたかさに私は何度感謝したかわかりません。

教壇に立って初めて気づいたこと、それは「全員のことがこんなに見えるのか！」ということでした。私が授業を担当した 7 年生には、奇抜な考えに笑ったり鋭い発言に助けられたりと毎授業驚きと発見の連続でしたし、「あ、利根川の先生だ」（利根川を中心に関東地方のことを学んだ時間があつたから）と言ってあたたかく受け入れてくれたことなど、いろいろな場面で楽しませてもらいました。（授業ではにぎやかすぎて收拾がつかなくなりがちでしたが）。学校の始まりと終



わりを一緒に過ごす 8 年 3 組では、朝に全員が揃うと嬉しくなり、帰りに元気な顔を見ては安心し、ジャーナルの個性豊かな内容に思わずニヤリとし…を繰り返していくうちに、「長いスパンで生徒を見る」という生徒との向き合い方を少し体験することができたかなと思います。

自分がどんな教師になりたいのか、あるいはどんな教師になれるのか、そもそも自分は一体どんな人間なのか。きっと生徒である皆さん方との関わりの積み重ねの中で、徐々に浮かび上がってくることなのでしょう。一人一人の顔を思い出しながらつい笑顔になってしまう私。今はそれだけで十分かな、と思っています。

最後になりましたが、教育実習生として再び SIS に受け入れてくださった大迫先生や平尾先生、職員の方々、様々な場面で支えてくださった社会科をはじめ皆さんの先生方、そして教育実習中つらいときも嬉しいときもいつも様々なアドバイスと励ましで見守ってくださった指導教諭の中村亮介先生に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



<教育実習> 「笑顔」に支えられた3週間

阿部友香

第11期卒業生 立命館大学国際関係学部国際関係学科4年

9月17日から10月6日までの3週間の教育実習で私は、「こんなに一人一人の笑顔に力をもらったことはない！」と思う程、生徒達の笑顔に支えられました。

教育実習の初日、朝のホームルームに向かう途中私は緊張と同時に、ワクワクしていました。ホームルームのみんなと仲良くなりたい！と思い、朝時間が余ったら何をしゃべろう、と初日から考えていました。けれど実際はホームルームの朝の10分間では出席をとって、連絡事項を伝えるだけで終わってしまい、最初の3日間程は同じような感じで進み、私は悩んでしまいました。けれどそんな時に、ホームルームの生徒が廊下ですれ違った時に、「先生授業がんばってね！」と笑顔で声をかけてくれて、それが本当に忘れられないくらい嬉しくて、その瞬間「がんばろう！」という気持ちが一気に沸いてきたのを覚えています。

その瞬間からずっと私は、みんなの笑っている顔を見るのが楽しみで、皆の笑顔を見る度に力をもらっていました。放課後一生懸命運動会のパフォーマンスを練習している皆の所に行ってみると、「先生～！」と笑顔で呼んでくれる生徒達。「何かアイデアないですか？」と聞いてくれたり、「最後までいてくださってありがとうございます！」と私に言ってくれる生徒達、一言一言が嬉しくて、もっとも明日からがんばろう！という気持ちになり、るんるん気分（笑）帰宅していました。

授業の実習ではミルズ先生の英語のクラスを担当させて頂きました。最初の1週間は授業を見学していましたが、ミルズ先生が、「Miss. Abe will be teaching you next week!!」とクラスに言った瞬間、生徒達がイェーイ！と声を挙げ、嬉しいと同時にそんな皆がとってもかわいくて、絶対授業がんばろう！と言う気持ちになりました。次の週、私が初授業をする日の朝、一人の生徒が「先生今日の授業楽しみにしてますよー！」と私に言ってくれて、やっぱり私はこの時も、どんな時も、生徒の笑顔から力をもらっていま

した。

指導案をつくるのはとても大変でしたが、こんな風にしたら皆楽しめるかなど考えたりすることがとても楽しかったです。ミルズ先生にもたくさんサポートをして頂き、自信を持って授業に挑みました。とにかく「明るく、笑顔！」と思って挑んだ授業ですが、教壇にたつて生徒達を見ると、私は自然に笑顔になりました（汗はかきましたが…笑）。生徒達は私の授業にとても協力的で、私を助けてくれて、楽しく授業ができました。本当にありがとうございます！

教育実習期間の半分が過ぎる頃には、生徒達が本当にかわいくて、あと少しで実習が終わってしまうのかあ・・・とっていました。ホームルームの生徒達、授業の生徒達に関わらず、私が見学する授業の生徒達や、放課後私がうろうろしている時に話しかけてくれた生徒達（見つけてくれてありがとうございます！笑）、以前サタデースクールで知り合った生徒達、私がSISにいた頃にキャンプで一緒になった後輩達、みんなが笑って話しかけてきてくれて、大学の話や、恋愛の話、私がSISにいた頃の話等たくさん話をしました。うれしい時は素直に喜び、怒る時には怒り、不満な時には不満を言う、そんなみんなの素直な姿はキラキラしていて、私はそれを見るのが大好きでした。

この様に楽しい毎日を過ごせたのは、生徒達はもちろん、そして先生方のサポートも同じくらい大変大きかったです。最初は、英語科に実習生が私一人ということで緊張していましたが、だんだん英語科の暖かい雰囲気（あたたかみ）に気付き、居心地がよくなっていきました。先生方とお話することが楽しかったし、何よりも、私が何か不安な時にはいつも暖かい言葉をかけてくださりました。「大丈夫！」、「It'll be alright! Don't worry!」といつも励ましてくださり、心が軽くなっていました。英語科の先生方に限らずSIS、OISのたくさんの先生方にもいつも、「どう？大丈夫？」等と声をかけて頂き、私はたくさんの支えを感じて、心強かったです。特



に、この実習中一番一緒にいる時間の長かったミルズ先生！どんな時でもポジティブにアドバイスをくださり、本当にありがとうございました！

教育実習は運動会で終わるはずだったのですが、あいにく雨で中止になってしまい、けれどどうしても皆のパフォーマンスが見たかったので、水曜日にパフォーマンスを見に行きました。そして私は、一致団結したパフォーマンスを見て、感動して涙がワッと出てきました。色々な意味で感動したのですが、やっぱり大学4年生になって色々進路等で悩み、自分が見えなくなっていたことも多かったので、こんなに輝いている皆を見て溢れる程の力をもらいました。皆、どの学年も素晴らしいパフォーマンスをありがとうございます！デジカメで録画したので、これからもそれを見て元気をもらおうと思います！

この実習を通して、たくさんの「笑顔」という宝物をもらい、「たくさんの人の笑顔が見れる仕事がしたい、誰かをハッピーにする仕事がしたい」と思うようになりました。そして、自分がSISの卒業生であることをとても誇りに思い、一旦SISを出て、また戻ってきて、SISの良さを改めて実感し、今まで見えなかった良さにもたくさん気づきました。

本当に貴重な3週間でどうもありがとうございました。一生忘れられない思い出です！またSISに遊びに行った時にはよろしく願います。

<サマーキャンプ2007>職業体験プログラム報告 (第2回)

安全第一！飛行機を運行する現場

宮尾紗代

高等部2年

私は7月4日に、キャビンアテンダントの職業体験をしてきました。まず、伊丹空港のセキュリティーエリアで、支倉さんというJALに30年以上もキャビンアテンダントとして働き、今はキャビンアテンダントとしてだけではなく、客室乗員室客室マネージャーとしても勤務しておられる方とご挨拶し、客室乗員室に案内していただきました。その部屋の壁には、注意事項や研修の案内などについて、たくさんの掲示物が貼られていました。これらの掲示物は、キャビンアテンダントの方などが、必ず目を通し、内容を頭に入れておかないといけないそうです。

私はこの客室乗員室で、午後1時からこのブリーフィングに参加させていただきました。ブリーフィングとは、出発前に行う要旨の説明や報告のことです。この時は14時出発の東京行き飛行機にむけてのブリーフィングでした。この便に乗務するキャビンアテンダントの方は6名で、1時になると、1つの大きな机をかこんで、キャビンアテンダントの方々が座り、ブリーフィングが始まりました。まず皆で軽く挨拶をして、その後一人の方がビデオテープをテレビに入れました。何が始まるのだろうと思いながら見ていると、何と始まったのは準備体操でした。このお仕事は、腰を痛めてしまう人が多く、職業病とも言われているそうです。そのため、仕事前に準備体操をして体を柔軟にしておくことは、とても重要なことなのだと言われました。支倉さんが教えてくれました。その後は、非常時の対応、美化、機内販売などそれぞれの担当の方が、注意事項を確認し、その後、爪の長さやマニキュアの色、髪のみだれがないかなどのチェックが行われました。最後にパーサーの方が、最も注意すべきことを再度確認し、「今日も笑顔で、緊張感をもって頑張りましょう！」と言って、約20分間のブリーフィングは終わりました。6人のキャビンアテンダントの方々は、緊張感があり、すごくかっこよく見えました。

次に、抗務部というところに行きました。抗務部では、伊丹空港のすべての

フライトを管理・監視しています。飛行機を安全に、スケジュール通りに運航するというすごく重要なお仕事です。そこには、コンピューターなど、本当にたくさんの機械があって、私は唖然としてしまいました。そのうえ、どの画面にもたくさんの文字や図、地図などが映し出されていて、私にはどうも理解することができないものばかりでした。ここでは、運航の全てをリアルタイムにモニターしています。それらのほとんどは、英語で表示されていました。省略されて使われている言葉や、専門用語などは、私にはどれも暗号にしか見えませんでした。ここでは、さまざまな部門との調整を計らないといけないため、それぞれの専門家が集まっています。全国を飛行中の航空機とは、常に無線で交信が可能な状態になっていて、最新の気象情報を地上からアドバイスしています。中には、無線を同時に2つも扱っている方もいて、私は驚きました。本当に器用というか、「すごい！」の一言でした。台風、大雪などの悪天候や機材のトラブルなど、前もって予測できない事態が発生した時は、ただちに対応してスケジュールの維持・調整を行います。運航に関わる、ありとあらゆる情報を集約して、迅速かつ正確に対応していました。抗務部にいた方々は、淡々と仕事をこなしていて、最初は単純なお仕事なのかと思ってしまうけど、実際はどの仕事もとても複雑で、重要なものばかりでした。たくさんの機械を扱い、大きな責任のあるお仕事で、私はこの場に1日いるだけでもパニックになってしまおうかなと思いました。普段だったら、決して目にするのでできない場に行かせてもらい、運航するには、たくさんのスタッフが関わっているのだと改めて感じました。

抗務部を出たのは、もうすぐで2時になるという頃でした。2時といえば、先程ブリーフィングを見せてもらった、東京行き飛行機が出発する時間です。急いで出発ロビーまで行って、特別に出発する飛行機の入り口まで入れてもらいました。

出発時間まで本当にあともう少しというところで、グランドホステスの方がパーサーのもとまで、お客様が全員乗りましたという報告と、パッセンジャーレポートというお客様状況の書かれた紙を、走って渡りにきました。この引継ぎが終わってからは、飛行機のドアは閉められないそうです。こうしてやっと飛行機のドアは閉められました。私は、飛行機がスポットから離れていくのを、地上の方と一緒に見ることができました。そのうえ、整備の方と一緒に、手を振ってお見送りするところまでさせてもらえました。整備の方は、「この機は、安全運航できるように、しっかり整備しました！」という気持ち、地上の方は、「お客様を無事全員お乗せしました。後はよろしくお願いします。」という気持ちをこめて、この機が安全に運航してくれることを願いながら、気持ちをこめて見送っているそうです。毎日たくさんの飛行機が運航されていますが、その一機一機が出発する度に、このような気持ちをこめて見送っているのだと知り、一機一機の飛行機に携わっている方々の思いの深さを感じました。私は、この時出発した飛行機のために携わった訳でもありませんが、無事に到着してほしいなと心の底から自然に思えたので、その思いの深さを、私も少しは感じ取ることができたのかなと思います。

最後に支倉さんから、今後キャビンアテンダントになりたいと思っている人へのアドバイスを4つ預かったのので、紹介します。1. 時差など、非常に不規則な勤務なので、健康でないと勤まらない仕事です。若い時から運動をして強靱な体力を養ってください。2. 「人のお世話をすることが好き」「人と関わっていることが好き」な人が、この仕事にむいています。3. 反面、一人で世界中どこでも移動することがあるので、「一人でもたのしめること」も大切です。4. 英語は必須です。英語検定やTOEICを受けて、どんどん磨きをかけてください！

それでも、こぎ続けて… (後半)



松本直也

中等部3年

旅はスタートラインをきった。

出発前に一度、学校を眺め、出発した。2週間後の僕は、ここに立って何を考えているのだろう。疲労、不安、希望で頭がゴチャゴチャのせいか、旅に行く実感が全く湧かない。西宮で、飴ちゃんが合流した。初日の宿泊は、神戸にある、僕の祖父の家。そこまでの42キロなんて、練習を考えると朝飯前のはずなのに、ペースが乱れて夕方に到着した。その夜は、なかなか眠りにつけなかった。

次の日は5時に出発した。ゴールは赤穂。山を越え、田舎を走り抜け、そして、目の前に海が広がった。明石でタコを干しているおじいさんが、タコ飯について熱心に語ってくれた。海沿いを走って、姫路城にたどり着いた。ここから、本格的なアップダウンが僕らを迎えていた。幾つ越えても、山また山。最後の難所を制すると、「遠くに来た」としみじみ感じた。温泉に入り、コインランドリーで洗濯し(これは、ほぼ毎日した)、夕食にステーキを食べた。しかし、キャンプ場に行くには、まだまだ山を越えなければいけない。

真っ暗な山、しかも、くねくねみち。敬ちゃんの自転車が妙な音を立て始めた。タイヤに紐が絡まった様だ。暗闇の中、自転車を修理。嫌な予感・・・車の音がした。「車！車！」と叫んだが、車はスピードを落とさずカーブを曲がってきた。皆、恐怖で固まった。「死んでしまった」と真剣に思った。車は危機一髪でハンドルを切り、反対車線へ。汗を打ち消すほどの冷汗をかいた。キャンプ場に着いたのは夜の10時。初日から、疲労の限界に達していた。テントを広げて、エアーマットを膨らますと、さらに疲

労が増した。この日の走行距離はなんと121キロ(僕らの史上最長)。しかも、荷物の量が尋常ではなかった。「明日は休みにするか」アラームを切って眠りに着いた。

3日目は、大富豪をしたり、赤穂の海でクラゲを捕まえて食ったりして楽しんだ。しかし、昼前になると、暑さに耐えられなかった。皆で話し合っ「自転車に乗っているほうが涼しい」と判断し、出発した。コンビニで昼飯をすませ、幾つかの山を越えて、岡山県に突入。日生を過ぎ、倉敷に着いたのは夜。この日は、ウォルトンさんの英会話教室に泊まった。

4日目で、初めての休憩日を設けた。美観地区でゆっくり観光し、ランチに名物倉敷そばを食べて、ボーリングをした。ケーキを買って、俊と飴ちゃんの誕生日も祝った。そして、ウォルトンさんが予約してくれた味噌カツを食べた。(ウォルトンさん、とてもお世話になりました。ありがとうございます！)

5日目は、皆、元気溼刺で出発した。倉敷を出て、笠岡を走り抜け、広島県の看板が見えてきた。ちょうど看板の手前で止まるのが、旅行のルール。今日も太陽が意地悪に光っていた。そこで、皆で影に隠れていると、突然おばあちゃんが、「頑張ってるね」と窓から手を伸ばして、真っ赤なトマトを沢山くれた。僕はあまりの美味しさと、人の優しさに感激した。広島県に入り、尾道ラーメンを食べて、本州とお別れした。ここからは「しまなみ海道」。六つの島を渡って、四国へ行く唯一の自転車ルート。アップダウンが激しく、修理店や食品店が少ないため、旅の一番の難所だ。宿泊地は因島だったが、手前の向島でスーパーを見つけ、そこから数キロも店がないため、

ここで食糧を買い込むことにした。因島につくと、綺麗な海で汗を洗い流した。島のおじさん達と、崖から海に飛び込んで、贅沢に瀬戸内海を楽しんだ。テントの上窓から、美しい夜空が見えた。「あっ！流れ星！また、流れ星！」と叫んでいた。

6日目は、敬ちゃんの案で、朝の2時に起床し、3時過ぎに出発した。睡眠不足で頭がくらくらだった。海道最後の島をやっと走り終ると昼前だった。ご褒美に旅行一の絶景、来島海峡大橋が僕らを待っていた。四国への4キロは、まるで空の中を漕いでいるみたいな、なんとも神秘的な風景だ。今治温泉で疲れを癒し、キャンプ場に到着したのは夜だった。

7日目は休憩日。道の駅で朝飯を食べ、お土産を大量に買いあさった。この日も海を満喫して、温泉に入った。しかし、あきの自転車が重大故障を起こした。自転車のコアにある輪が外れて、ペダルが漕げなくなってしまった。僕は自転車屋を必死に探したが、お盆休みでほとんどが休業だった。かなりの時間がかかったが、飴ちゃんの修理技術と、皆の協力でなんとか自転車を修理した。

8日目。あきの自転車は復活したように見えた。しかし、40キロ進むと、また故障したのだ。しかたなく、僕は自転車を漕ぎながら、あきが乗っている自転車を(ペダルが漕げないので)引っ張った。これでは体力的に死にそうだったので、コンビニで自転車屋が周辺にあるか訪ねた。すると、奇跡的に、すぐ近くあったのだ。そこで、あきの自転車を修理して、再出発。そして、三島のホテルに泊まった。

(次ページ★に続く)

世界ジャンボリーに参加

阪口 純
高等部2年

この夏僕は世界ジャンボリーという4年に1回行われる大会に行ってきました。世界ジャンボリーというのはボーイスカウトである僕たちにとって夢のような大会です。またこの年2007年の夏はボーイスカウトにとってとても大事な年でした。なぜなら1907年にベーデン・パウエルという人がイギリスのブラウンシー島で少年20人を連れ実験キャンプをしてボーイスカウト運動が始まりました。つまり今年がボーイスカウト運動100周年の記念すべき年ということです。

この世界ジャンボリーには155ヶ国4万人のスカウト達が発祥地であるイギリスで行われました。大会は12日間あり、そのなかで色々のプログラムを体験し他国の文化、食、もちろんボーイスカウト活動についてたくさん知ることが出来る12日間でした。開会式には、英国皇太子も登場し盛大なものでした。また、僕が感動したことは8月1日の朝にあったサンライズセレモニーという式典です。サンライズセレモニーというのは、この年がちょうどスカウト運動がはじまってから100年

たったのでまた新たなスカウト活動をスタートする日でした。また僕がこの日、会場に入った時に驚いたことは、いつも会場には各国旗で埋め尽くされていましたがこの日だけは会場に掲げる旗は国旗で

はなく、世界スカウト章というマークの旗を掲げていたことです。僕はこの光景を見た時はとても感動しスカウトの心が一つになった瞬間だと感じました。セレモニーでは全員が同じチーフをして参加しそのチーフにサインをしてもらうというプログラムがありました。大勢のサインが集まったチーフは宝物です。また、去年参加したアメリカ、オハイオ州でのボーイスカウトキャンプの仲間達との再会もとてもうれしい出来事でした。僕の大会中での楽しみの一つはグッズ交換です。フリーマーケットのように日本のスカウト用品を並べ他



のスカウト達のグッズと交換をします。日本のハッピーはとても人気でした。そして、あっという間に閉会式の日になりました。この日あいにくの雨になってしまいました。同じサイトで仲良くなったスカウトの人達と大いに盛り上がりました。

僕はこの世界ジャンボリーに参加して、人種や言語が違っていても心を一につくれば色々なことに取り組めるということを実感しました。原隊（自分の所属する団）でこれからも多くのことを学び、4年後のスウェーデンでの世界ジャンボリーにまた参加したいと思っています。

(★前ページの続き)

9日目はみんなで議論した結果、一気に高松までの2日分を1日でぶっ飛ばすことにした。高松で念願の讃岐うどんを腹に収めた。ここからはフェリーにバトンタッチし、小豆島へ行った。

10日目は休憩日、テントの中は暑いので、やっぱり海遊び。名物のそうめんを食べて、温泉に入って、夜はカップ麺を食べた。

11日目は、小豆島をほぼ横断した。この日は灼熱の太陽に日干しにされそうだった。その上、連続的に襲い掛かる山々にクラクラした。熱中症寸前だったのかもしれない。ここの道は、アップダウンではなく本当に「山」だった。反対側にある、福田港に、昼過ぎに着いた。ここから、フェリーで姫路に行き、夜景の中を明石まで走った。そして、明石大橋のすぐ前にあるユースで泊まった。

12日目、最終日。すがすがしい朝を迎え出発。気付けば、一度も雨が降らなかった。意地悪だと思っていた太陽は、実はいいやつなのかもしれない。神戸の町並みを見て「帰ってきたなー」と感じた。この日の50キロは近いようで、遠かった。西宮に着いたが、飴ちゃんは西宮の家を素通りした。「みんなと同じ距離を走りたい」飴ちゃんは最後（学校）まで一緒に行くと決心した。ついに171号線に乗る。171号線は練習で4回も征服した。練習をしてきた努力も、走り続けた距離ももうすぐ終わると感じると、少し寂しくなった。考えているうちに、大阪空港、石橋、カルフル、最後の数メートル…。ついに、学校に着いた。

何が変わったか、分からなかったが、僕の中で確実に何かが変わっていた。その時、俊が”Friendship is Important!”

と言ったのが、心に沁みだ。美味しい昼飯を敬ちゃんのお母さんにご馳走になり、解散した。飴ちゃんは、一人、背を向け西宮に帰っていった。今までにない飴ちゃんの姿は、かっこよかった。こうして、僕らの旅は静かに幕を閉じた。練習を合わせて、合計1400キロも走った。

企画力、自立、人情、判断力、協力、友情。ここに全てを書けないほど、色々な事をこの身で感じ、学んだ。結局、鹿児島まで行けなかったじゃないかと鼻笑いされても、仕方がない。けれども、鹿児島に行くのだけが、旅ではない。まして、「旅」に行く事だけが旅ではない。僕らは生きている限り、旅をしている。旅で何が起こるかわからない、だから、旅を続ける。未来というリスクといつも隣りあわせ。それでも、こぎつけて…。

学年だより

● 中部部1年生 (7年生)

秋学期の大きな目標

井藤眞由美

1組担任、英語科

初めてのスポーツディは、雨で日程変更などあったことが少し残念でしたが、無事すべての競技を終えることができ、楽しい思い出がまた一つできました。

春学期には、まず学校に慣れ、クラスの仲間たちと協力し合って過ごしていく環境を作り、そこから少しずつ学年全体の動きをとるようになった7年生たちでしたが、秋学期に入ると、SISの学年全体のみならず、OISの仲間たちとのチームワークが必要、ということで、突然大きく輪が広がりました。岡本先生が前回のこの場所で、「楽しむほどいいものが出来上がり、一生懸命になればなるほどみんなは成長します」と書いてくださっていたように、このスポーツディ関連でがんばった人の成長は個人的にも、学年という集団としても、目をみはるものがありました。

スポーツディが終わって、このあと今年いっぱい、ロングホームルームの時間を使って学年全体での活動を行います。まず最初の一時間は、スポーツディを振り返りつつ、日常生活を見直し、5つのリスペクトをあらためて考える時間としました。春学期には大迫校長先生の授業で5つのリスペクトについて考えていましたが、今学期にはその授業がありませんので、この機会に学年で集まって一時間みんなで一緒に考えました。たとえば『自分を大切に』。スポーツディ関連では、自分に納得の行く行動が取れたかな？○○ちゃんがするから(しないから)自分も・・・などという決断はなかったかな？自分に与えられた責任は果たせたかな？その後の生活ではどうかな？そんなことを考えました。5つのリスペクトがどれもとても大事であることはもちろんですが、今回、学年として特にしっかり考えてほしいテーマとして、『環境を大切に』をあげました。春学期から気になっている点ですが、人の体に触れる(たたく、ける、腕を巻きつける、など)のを、冗談や遊びでしている人がいるのが、まだなくなりません。ただの遊びだから、する人もされる人も困っていないからいい、という意見の人がいるようですが、それは違い

ます。学校という環境を大切にする、という観点からもこのことについて考えました。校則で決められているから、ではもちろんなく、先生がしかるから、でもなく、5つのリスペクトを本当に理解したうえで、自分の行動を考えられる人になってほしい、、、これを学年として秋学期中の大きな目標にしました。

このあとは、ミルク募金という活動に学年全体で取り組みます。これは代々7年生の活動としてSISに定着していますが、どうしてこの活動を毎年行うようになったのか？この活動の募金の送り先であるインドの施設を作ったマザーテレサとはどういう人であったのか？ということをもっと最初学びます。このインターカルチャが発行されるころには、生徒たちはみんな、そのことをちゃんと説明できる状態になっていることと思いますので、保護者の皆様ぜひひこの二つの質問をしてあげてください。

● 中部部2年生 (8年生)

スポーツデーを終えて

難波和彦

1組担任、英語科



8年生では、スポーツデーに向けて、スポーツデー委員を、3つの委員会に分けて、取り組みました。パフォーマンス委員は、昨年同様にダンスの振り付けを考え、練習をリードしてくれました。今年はkung-fu dancingの曲を中心に使い、カンフー的な動き、男の子のグループと女の子のグループのバトル、アクロバティックな動きなどをうまく取り入れて、全体としてまとまりのあるパフォーマンスができあがりました。9月になってから、練習を始め、時間があまりないうちに、8年生が練習のできる月・水・金のうちの月曜日が休みのことが多く、練習時間を作るのが大変でした。しかし、その限られた時間をうまく使い、昨年同様素晴らしいパフォーマンスをすることができました。OISとSISの生徒が本当に仲良く

く協力できたことも素晴らしいことです。Tシャツ委員は、Tシャツのデザインについて時間をかけて議論しました。こちらもOISとSISの生徒が協力して、委員会での話し合い、生徒全体へのアンケートなどを実施して、最終的には、前面にSISのアイデア後面には、OISから出てきたアイデアを採用することになりました。ポスターのほうは、8を蜂とかけ、シンボルとして使い、みんなの名前を書き込むことで、チームワークを表しました。

スポーツデーの日は、運悪く雨で休みになりましたが、生徒たちは文句もいわずにとっても協力的で、代替日のミニスポーツデーのときも、スポーツマンシップを大切にして、「勝つことだけを目標にする」のではなく、OISとSISが協力すること、相手チームのことも思いやること、などに気をつけて、競技そのものを楽しむことができたと思います。これから学年があがっていても、今のような気持でスポーツデーに臨んでほしいものだと願っています。

● 中部部3年生 (9年生)

Ninth Grade Takes First Place in the Sports Day Poster Contest!

Shammi Datta

4組担任、社会科

SIS and OIS ninth graders worked hard this year to prepare for all aspects of the sports day. The performance team designed a powerful performance and practiced hard for many days after school. They used a unique combination of Western and Japanese music, and entertained a full house audience in the school gymnasium. Our grade took 3rd place in the performance category.

The student council also organized a poster contest leading up to the sports day. Grade 9 again came up with a unique idea. They used a few hundred photographs to create a huge number nine (please see the picture.) Our grade



took first place in this contest. Congratulations!

Our participants in the sports activities gave their best, but the competition from the higher grade was tough. The green きゅうりいず T-shirt will forever remain a memory and a prized possession.

Since the sports day could not be held as originally planned on October 8, the performances were held during LHR on the 10th, and the other activities on the afternoon of the 17th. We would like to thank the 9th grade parents who came out to support and cheer the grade.

At present, the grade is preparing for our trip to Kagawa. The grade trip committee is working hard for this. I hope it is a trip where we all learn many things and come back with fond memories.

●高等部1年生(10年生)

秋学期の風景

松島 勇

4組担任、国語科

先日行われたミニスポーツデイでは、高1学年も他の学年以上に、団結して頑張り、楽しんでいました。高1生に限らず参加したどの生徒の顔も授業で座っている時とは違った輝きを持っていたようにも思えました。学校生活の中では、やはりこういう行事も大切なのだと改めて感じさせられました。雨のために当初の予定とは随分違った形での実施となりましたが、それにもかかわらず色々と工夫して楽しいスポーツデイを作り上げた生徒会のメンバーそれから指導に当たった顧問の先生方、体育科の先生方の尽力に感謝します。9月中の朝のHRはもスポーツデイに関する連絡が多かったのですが、その中心となって活躍してくれたのが各クラスのLHR委員でした。彼女ら(彼ら)の努力があったからこそ、学年が一つにまとまって力を尽くすことが出来たと思います。高校生として自主的に活動するその姿に、頼もしさも感じました。これからも、様々な場で高1生が積極的に取り組んでくれることを期待しています。

さて、最近朝のHRでは時間に余裕のある時に、クラスの一人一人順番に最近のニュースの中で、印象に残っているものや気になることを尋ねています。余った時間を有効にと思ったことと、高校生として自

分の周囲のことだけでなく、広く社会に対して関心を持ってもらいたいという希望を持って始めたことなのですが、現実にはなかなか期待した通りには進んでいません。「最近気になるニュースは？」というこちらの問いに対しては「特にはありませんでした……」や「さあ………」という返答が多く、これは失敗だったと思っていました。ところが、阿倍首相の退陣の時には、「阿倍さんが病気であったこと」や「次は誰が総理大臣になるのだろう」などと色々関係した話題が生徒の中から次々に出てきて、決してニュースに無関心ではないこともわかり結構面白く思えました。その後も活発に話題が出てくるわけではないのですが、ボクシングの亀田親子が話題に出てきたりと多方面に話題が移っていき、それはそれで興味深く、また一人一人の関心がわかってきたりと楽しめるものとなりつつあります。そういうわけで、もう少しこの実践を続けてみようかと思っています。

●高等部2年生(11年生)

12年生に感謝

相良 宗孝

4組担任、保健体育科

10月8日、今年も皆が楽しみにしている体育祭。しかし、当日はあいにくの雨。予定していたすべてのプログラムが本学、開学以来はじめての中止になりました。しかし、多くの生徒の要望で急遽10日と17日に分け、授業を短縮しミニ体育祭が開催されることになりました。

今年の目標は12年生を破り、HS部門の完全優勝を勝ち取ることでした。LHR委員がすべてを取り仕切り、学年Tシャツを作る委員、練習計画をオーガナイズする委員など、準備段階から上手に役割分担が行われるあたりは、さすが11年生、すばらしかったですね。今年はパフォーマンスに関しては人数が若干少ないということもありましたが、それでも30人以上の参加者が、朝や放課後を使い一生懸命練習しました。もちろんそれ以外の種目の大縄やリレー、その他にいたってもしっかり練習していました。さて、本番です。最後の運動会ということでさすがの団結力を見せる12年生、玉入れや大縄では最後までねばる11年生を振り切り、僅差でしたが勝利を勝ち取り、今年も順当に12年生の優勝かと思われましたが、11年生がパフォーマンスで優勝、そのほかリレーでも。また

綱引きでは圧巻の1、2フィニッシュ。見事逆転で、完全優勝を勝ち取りました。本当にすばらしいことです。しかし、これも12年生という最高のライバルがいてこそ出来たパフォーマンスです。いつも目標になって、こんなにも我々を成長させてくれた12年生に感謝することを忘れずに！

さて、今後は行き先が台湾に決まった来年の学年旅行について、内容をどんどんつめていく段階に入ります。一生懸命前向きに参加し、全員が満足できるすばらしいものになりたいものですね。

●高等部3年生(12年生)

SISでの締めくくりの時期

志垣 満理

2組担任、生活科学科

12年生にとって最後のSISでの運動会が終わりました。雨天によりまさかの中止。そしてパフォーマンス大会(?)とミニスポーツデイ。今年こそは優勝!と気合が入っていただけに本当に残念でした。気持ちの整理がつかない、納得がいかない等、気持ちの上ではもやもやしながらも、すぐにパフォーマンスや競技のために練習を開始した皆さんを見て、さすが12年生だなと感心しました。うまく行かないことがあっても、自分たちが出来る最善を尽くす。投げ出してしまふことは、簡単なことですが、そこで踏ん張って頑張ってみる。そんな姿勢があれば、これから色々なことがあると思いますが、きっと自分達の力で乗り越えて行けるのではないかと思います。最後の結果を見れば、優勝こそ出来ませんでした。が、(今はそう思えなくても……)得ることも多かった運動会ではなかったかなと思います。特に、学園祭直後から学年をまとめようと一生懸命頑張ってくれた運動会委員の皆さん、本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

今、12年生は同じ教室に居ても、もう既に進学先が決まった人、試験を受けている人、出願の準備をしている人、一般入試のために一生懸命勉強している人、それぞれがそれぞれの目標に向かって努力し、自分が出ることは何かを一生懸命考え行動している姿があります。残り4ヶ月間をSISでの締めくくりの時期として、また、新たな道への一歩を踏み出す準備の時期として、大切に過してもらいたいと思います。

APAC 野球優勝 テニス3位 バレーボール男女4位

全チーム Sportsmanship 賞受賞



APAC 野球

相良宗孝
保健体育科

2007年、本校の参加が最後のAPAC野球大会はCA（カナディアンアカデミー）で開催されました。

オープニングゲームは、最大のライバルCAとのもので、緊迫した投手戦になりました。相手投手の出来が非常によく、なかなか打ちあぐねているところに、出会い頭に伏兵に2ランホームランを浴びました。その後なんとか1点は返したものの、そのまま2-1で敗戦という苦しい立ち上がりになりました。

しかし、優勝するにはもう1敗も出来ないという展開に選手たちでしたが、固くなることなく、開き直り、そこからはのびのびプレーで勝ちを重ねていき、連戦連勝、ついに念願の決勝戦に進出しました！

予選リーグでは全勝チームが無しで、1敗の本校に次いで、2位は3チーム（CA、北京、マニラ）が2敗で並ぶという大混戦になりました。結局、直決対決で両チームに勝っている北京が決勝戦の相手になりました。決勝でも、決して臆することなくのびのびプレーの本校生徒たちは、なんとここきて14得点、しかも投手の森岡君が相手打線をシャットアウトする圧巻での完勝！見事に優勝を勝ち取ることが出来ました。

大会を通してのスポーツマンシップアワードも獲得し、APAC野球史上初のダブル受賞というおまけつきで、最後のAPACを最高の形で終えることが出来ました。

たった14名の部員、バッティング練習や外野の守備練習も出来ない本校の野球部が生徒数、何千人もいるインター校を破っての優勝です。選手たちを誇りに思います。

Scores

Brent	CA	ISB	SOIS	SAS
2-3	3-2	2-3	3-1	1-3

Final Scores

CA 2 VS SOIS 1	SOIS 7 VS ISB 0
SAS 21 VS ISB 3	SAS 3 VS CA 5
Brent 13 VS CA 7	Brent 9 VS SOIS 4
SAS 5 VS SOIS 9	3rd and 4th Place
Brent 6 VS ISB 8	CA 10 VS Brent 1
ISB 12 VS CA 6	Final
Brent 9 VS SAS 7	ISB 0 VS SOIS 14



APAC Tennis

Derek Entwistle
P.E.

APAC Tennis was in sunny Manila this year at the Alabang Country Club. All 5 visiting teams arrived with high hopes and brimming with enthusiasm. Our school team, consisting of Miho, Yoshiko, Mitsuki, Rena, Asuka, Takuma, Yuhei, Ryo, Shun and Satoshi were no different and coaches Dan Shiffmand and Derek Entwistle were looking to a top 3 finish this year. Over 140 tennis matches later it was "mission accomplished" and the bronze medal was safely in our hands due, in large part, to a very strong display by the Girls team and a consistent and hard fought effort by the Boys team.

Special credit to Mitsuki who was undefeated in Girls B Singles and Rena was far too good in the Girls A Singles bringing home the gold medal. Rena played 8 matches and lost only the ONE game in total - a truly remarkable effort.

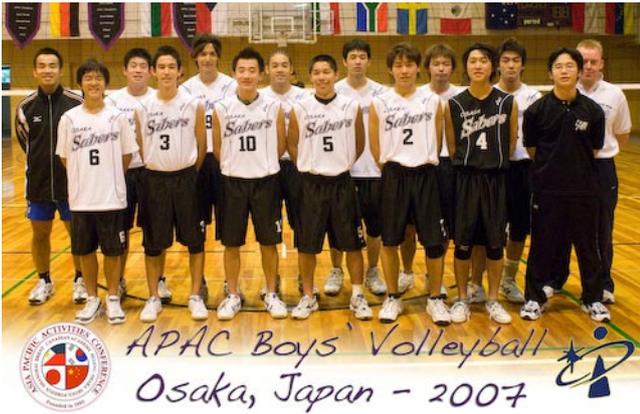
All players performed very well and were a credit to their families, their school and to themselves and Mr Shiffman and I would like to thank for them for their efforts and positive attitudes all season. We hope to see as many players as possible again next season.

APAC Tennis Game Summary

	Boys		Girls		MIX
	S	DBL	S	DBL	DBL
Champion	Brent(S1)	SAS	SOIS(S1)	SAS	SAS
2 nd Place	SAS(S2)	ISB	ISB(S1)	ISB	SOIS
3 rd Place	ISB(S1)	SFS	SAS(S2)	SOIS	ISB
4 th Place	SFS(S1)	CA	SFS(S1)	SFS	SFS
5 th Place		SOIS		CA	CA
6 th Place		Brent		Brent	Brent

★ APACとは、Asia Pacific Activities Conferenceの略称で、次の学校が加盟しています。＜APAC参加校＞北京インターナショナル・スクール（ISB: 中国）、上海アメリカン・スクール（SAS: 中国）、ブレント・インターナショナル・スクール・マニラ（Brent: フィリピン）、ソウル・フォーリン・スクール（SFS: 韓国）、カナディアン・アカデミー（CA: 神戸）、千里国際学園（SIS/OIS: 大阪）

APAC BOYS VOLLEYBALL



Simon Parker

P.E.

Wow! What another breathtaking 3 days of action and excitement!

APAC Boys Volleyball 2007 was held here at school between the 25th and 27th of October, and the crowd was once again treated to some great high school sporting action. As ever the competition was fierce and the visiting schools all came with aspirations of taking home the championship shield. Brent, Beijing and Shanghai in particular looked strongest in the opening rounds.

With a packed gym on the opening morning, we unfortunately lost out to CA by 2 sets to 1, before then suffering consecutive defeats to Shanghai, Brent and Beijing. An after school start on Friday for our game with Seoul saw another packed gymnasium and the noise was absolutely deafening. One good hit from Jun Sakaguchi(SIS 11)lifted the spirits and suddenly it was a different team and the energy levels and confidence began to rise against an enormous Seoul team. We went on to win the match by 2 sets to 1 to finish in 5th place after the round robin.

Saturday morning was one of the most exciting sports matches I have ever been involved with. The team managed to continue where they left off on Friday evening and beat Brent for the first time in 12 years by 3-2 to claim a semi-final berth against Beijing. The team from China did bring our run to an end defeating us by 3-0 after an outstanding double performance from both their centre players.

However we were left in the 3rd/4th place play-off game, an extraordinary achievement in itself given the start we had made to the tournament. And yet again the supporters were out in force to see us play out an absolute classic with the arch rivals from CA. Unfortunately after a bruising 2 hours and 20 minutes, we lost out in the fifth set after racing into a 2-0 lead. However any disappointment was soon forgotten when the team looked at just how well they had performed and how much they had improved over the 3 days.

And so fourth place, Rico Chow(OIS12) and Jun Sakaguchi on the All Star team, and all the team a credit to themselves and to our school. On behalf of the team a few thank yous: Mr. Tomohiro Honda, volleyball guru and good guy; Mr. Jim Schell; the homestay families; the SIS PA; and all the many faculty members who volunteered their time to officiate on the tables, take photos, maintain the website and produce the slideshow. A fitting end in our final APAC Volleyball tournament. It was my pleasure to have been a part of it all!!

Team: Akira Moriguchi (OIS12), Rico Chow (OIS 12) – Captain, Jun Yamaguchi (SIS 11), Jun Sakaguchi (SIS 11), Nobuhiko Kojima (SIS 11), Nobuaki Matsuo (SIS 11), Kho Roberts (OIS 9), Seito Minamikawa (SIS 11), Boco Chow (OIS 9), Taiki Utsunomiya (SIS 11), Ryuta Yagi (SIS 9), Junpei Tokuda (SIS 11), Iku Kawachi (OIS 12) – Manager



Boys Volley Ball Final standings

1st place: International School Beijing

2nd place: Shanghai American School

3rd place: Canadian Academy

4th place: SIS/OIS

5th place: Brent International School Manila

6th place: Seoul Foreign School

APAC 女子バレーボール



佐々木 愛

高等部2年

2007年のVolleyballチームは、名古屋トーナメントでは優勝、APACでは4位とスポーツマンシップをとる、すばらしい結果を残すことができました(もちろん、APACも優勝したかったですが)。夏休みや土曜日や祝日も、サウナ状態のジムで、汗だくになりながら練習に取り組んだ甲斐があって本当にうれしく思います。今シーズン、結果を残せたことももちろん嬉しいけど、何よりも嬉しかったのは、『大阪は良いチームだね』と、ほかの人みんなが褒めてくれたことです。点を決めたときに緊張にせいか、喜びを素直に表現できず、その喜びを次の点に生かしてない事に気づき、今年から、誰かが点をとったらみんなで喜びを爆発させよう! ということで、どのチームよりも

一番うるさく喜ぶようにしました。(くるくる回ってイェーイ☆みたいな感じ) そのおかげで、名古屋トーナメントでは、ホームの応援にも負けないぐらいチームは盛り上がり、1セットしか落とさない、完全勝利をすることができました。他のチームも私たちが応援してくれたり、レフリーの人が褒めてくれたり、1位になって表彰されたときには、他のチームみんなが『大阪の♪ちょっと良いとこ見てみたい♪』と、大阪の応援歌を歌ってくれました。

APACでは、CAの5年生が私たち大阪の応援団になってくれて、心強い可愛い応援団と共に、初戦、ソウルとの試合に挑みました。結果は残念ながら負けましたが、どれだけスパイクを打たれて、はじかれてボールがコートの外にいても、絶対に落とさない!と、走り回ってボールを繋げ、観客が総立ちするぐらい粘り強い良いラリーをすることができました。このラリーは、本当に私にとっても、チームにとっても、印象に残っているものだったと思います。私達の粘り強い、あきらめないプレーは、準々決勝のCAとの試合で、最初2セットとられても、フルセットまで持ち込んで逆転勝ちするぐらいのものでした。レフリーの人たち(JAPANと書いてるジャケットを着てました☆)も、大阪が良いチームと気に入ってくれて、良いアドバイスくれたりしました。BRENTとBEIJINGとSOULに負けて、結果は4位でしたが、最後の3、4位決定戦では、CAでAPACがあった野球のみんなや、他のチームのみんな、卒業生なども応援してくれて、本当に良い試合だったと思います。スポーツマンシップをとったことが、大阪が良いチームという事を証明できて、本当によかったです。周りで応援してくれたり、支えてくれた、親や先生や友達に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



Girls Volley Ball Final Team Standings

1st Place: Brent International School Manila

2nd Place: Seoul Foreign School

3rd Place: International School of Beijing

4th Place: SIS/OIS

5th Place: Canadian Academy

6th Place: Shanghai American School

陸上競技大会で活躍

馬場博史

ランニングクラブ・トライアスロンクラブ顧問、数学科

■ 10/7 (日) 吹田市長杯陸上競技大会

吹田市総合運動場で開催。本学園から生徒・教員・保護者22名が参加し、のべ13名が入賞しました。

<入賞> 高校男子 1500m 1位小澤悠(SIS11)、2位高橋直人(SIS10)、3位春名暢(SIS11)、5000m 1位小澤悠(SIS11)、2位清水稜太(SIS10)、3位亀井潤(SIS11)、高校女子 1500m 1位津高毬絵(SIS11)、2位森岡瑛美(SIS10)、3位谷南津子(SIS11)、3000m 1位為岡稚子(SIS11)、2位森岡瑛美(SIS10)、一般男子 5000m 2位神藤健一(OIS保護者)、壮年 50代 3000m 1位馬場博史(教員)

<他の参加者> Yujin Yamamoto(OIS6)、鍋島詩織、藤見洋佑、萱嶋智、檜木耀、廣井洗司(以上SIS7)、田和良真(SIS8)、Kento Baba(OIS9)、池田憲治、藤井資也(以上SIS9)、上田祐樹(SIS10)

風邪の予防

弥永千穂

スクールナース

手洗い、うがい、十分な睡眠、栄養は風邪予防の基本。今年は具体的にこんなことにもぜひ気をつけてみてください。

①学校に着いたらすぐ手洗い、コンピュータなどを共有した後は手洗い。

②手で顔や鼻をさわるときをやめる。(手についた菌は鼻やのどに。)

③鼻呼吸を意識する。(空気が鼻から入ることはウィルスの侵入を防ぐこと、湿った空気がのどに届くので乾燥を防ぎます。)

④室内(暖房)と外との気温差に対応できるような脱ぎ着しやすい服装にする。

⑤部屋の湿度を調整する。(加湿器の使用、濡れたタオルなどを部屋に干すなど)

⑥体調の悪いときは人ごみに行かない。(体調が悪い時

は免疫力が落ちています。インフルエンザが流行してくる12月末～2月は特に注意が必要)

⑦入浴する。(体を温め血液の循環をよくすることは免疫力を強める!)

⑧12時までにはベッドに入る。時間を有効活用しよう!

⑨毎日1個フルーツを食べる。(バランスの取れた食事の目安として・・・)

かぜをひいた時は何よりも休養が一番です。風邪によるしんどさや痛み、症状の程度はひとりひとり違います。「熱がなければ学校に行かなくてはだめ」というわけではなく自分のスケジュールと体調の変化も判断に加えて学校への登校を決めるとよいと思います。そして風邪と共にインフルエンザを忘れてはなりません。昨冬はインフルエンザの特効薬といわれたタミフルの副作用が報じられたので今年は予防接種を受ける人が増えるかもしれません。特に受験生、喘息などを持っている人はお早めにお近くの医療機関にお尋ねください。風邪が流行りませんように。

図書館に実習生

青山比呂乃

図書館

*実習生受け入れ

10月中旬の1週間、同志社大学から司書課程履修者の大学4年生2名の図書館実習を受け入れました。

これは、教職課程履修者が教育実習をするように、司書資格、司書教諭資格取得を目指す学生がしなければならない実習です。実際に実習が出来るような学校図書館は少ないため、同志社大学からの依頼を受け入れるようになったもので、今年は4年目になります。今回もSISの卒業生は含まれていません。

実習では、図書館の本や雑誌を整理するなどの事務的な仕事の他に、OISの小学生に絵本の読み聞かせや紙芝居をしたり、本の紹介をしたり、中1の「知の探検隊」では、教室での中間発表への生徒各自のまとめを見てまわったり、発表のデモンストレーションをしたりと活躍してもらいました。本の貸出、モバイルPCの貸出してもらった生徒もいるでしょう。ハロウィーンの飾りつけも手伝ってもらい、図書館もすっかりハロウィーンの雰囲気になりました。以下は、実習生の感想です。

図書館実習を終えて

同志社大学文学部4次生 香山 友里

今回の実習では、本当にたくさんのことを学ばせて頂きました。中でも大学の授業ではよく分からなかった図書館の生の現場というものを、肌で感じる事ができたのは大きかったです。実習期間の5日間があつという間に過ぎてしまい、今はとても寂しく感じています。

今回の図書館実習を通じて、私がこの学校の図書館が素晴らしいと思った点は大きく分けて3つあります。一つ目は多くの授業で図書館が利用されている点です。特に『知の探検隊』は実際に何度か授業に参加させて頂いた中で、情報提供の場としての図書館の役割を強く感じました。二つ目は図書館の雰囲気がとても良いという点です。開放的で明るく、楽しいディスプレイまで施されていて（ハロウィーンのディスプレイは私達も手伝わせてもらいました）、私が通っていた小・中学校の図書館とは大違いだと思いました。ただ資料を提供するだけでなく、利用者に親しみを持ってもらえる場を作ることも図書館には必要なのだと感じました。三つ目は資料が豊富で、かつ丁寧に整理されている点です。このような図書館を持つ学校で学べる千里国際学園の生徒達を本当に羨ましく思います。

お忙しい業務の合間を縫って私たち実習生に色々なことを教えてくださいました図書館の先生方をはじめ、実習期間中には多くの先生方や生徒の方々にお世話になりました。有意義な実習生活を送らせて頂き、ありがとうございました。心から感謝しています。

図書館実習を終えて

同志社大学文学部4次生 尺田詠子

私は、司書資格の獲得を目指し、千里国際学園の図書館での実習の機会を頂きました。インターナショナルスクールの校内図書館という環境の中からは何か特別な体験ができるのではないかと期待も抱いていました。私がまず驚いたのは、英語と

日本語の文献があることに伴い、OPACの種類も二つあり、双方の貸出・返却の作業も英語と日本語の文献では異なる点です。

そのため、最初は、基本的な貸出・返却業務を覚えるのに戸惑いもありましたが、配架をしている間は、英語と日本語の文献が存在する特別な空間に、心が弾み、実際の司書としての職務に一層の魅力を見出しました。

司書は、図書館全体を常に正しく把握し、利用する人たちに合理的な利便性を提供する、「陰の支え」的な役割を果たしています。本一冊一冊への思い入れの大切さは、新書の蔵書作業の際に感じました。それは、書籍への愛情であると同時に、利用する生徒たちへの心配りと、図書を十分に活用してもらいたいという願いといえると思います。幸運にも、私は生徒に紙芝居を読み聞かせる機会を頂き、子供たちの気持ちになって、どうしたら興味を持ち、集中して話を聞いてもらえるのか試行錯誤しながら実践を試みました。これをきっかけに、子供たちが自ら絵本や本に触れる機会を増大させ、インターネットなどの変化し続ける情報社会の中においても、いつまでも変わらない読書の意欲、書籍への興味を持ち続けたいと願っています。

最後に、司書の皆さんの心温まるご指導のお陰で、5日間無駄なく意義深い体験することができました。とても感謝しています。私の実習への期待は裏切られることなく、それ以上に、生徒との暖かい交流や、司書の皆さんの熱意溢れる仕事ぶりに接し、学校図書館の役割の重要性を学ぶことができました。

*今月の言葉

折にふれて、気になる言葉を紹介します。今回は、ある岩波新書の中に見つけたことばから。

思考

思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから。

作者不詳

Thoughts

Watch your thoughts; they become words.

Watch your words; they become actions.

Watch your actions; they become habits.

Watch your habits; they become character.

Watch your character; they become your destiny.

by unknown



OIS 幼稚園に点字を教えに行きました

青山比呂乃
点字クラブ顧問

9月中旬の木曜と金曜各30分間、アンスケの時間を調整して、点字クラブでOISキンダーガーデンに点字を教えに行きました。これは、OIS小学部が取り入れているPYPというプログラムに沿った活動で「触って感じる」という課題に取り組むため、日本語の授業での体験学習のお手伝いをしたというものです。

点字クラブは、1991年9月から続いている中高生のクラブで、普段は毎週水曜の放課後に、MMラボで活動しています。日本語の点字の書き方を一通り練習した後、点字絵本作りに取り組んでいます。この絵本は、目の見えないお母さんでも、目の見える自分の子供にお話を読み聞かせることができるようにと作られるようになったもので、普通の絵本に文章を透明のシールに点訳したものを貼り付けて作ります。最初は間違えて、部分的やり直しも多く、なかなか点字図書館の蔵書にしてもらえるような作品はできないのですが、楽しくがんばっています。

今回思いがけずキンダーガーデンの先生から、点字を幼稚園の生徒に教えてほしいと依頼を受けて、中1から続けているベテランの11年石神君、今年の春学期に始めた10年の田中さん、学園祭後に入ってきた10年の山澤さん、小川さ

んと顧問の私とで
いてみることに
しました。

1回目の木曜は、
石神・田中の2名
で、日本語で点字
の紹介をし、小学
館から出版されて
いる点字雑誌を目

隠してさわってみるなどを5歳クラスの9名ほどの生徒に教えました。最初はお互いに緊張していたのが、ちょっと慣れると今度は意図したのと違うことを生徒が始めたりと、ちょっと苦戦していましたが、さわる迷路なども面白かったようです。

2回目の金曜は、10年女子3名で「自分で点字を打ってみよう」という指導。3人ともまだ点字を始めて日は浅いのですが、木曜と同じ生徒4.5名2グループ一人一人になんとか、自分の名前を書いたしおりを作ってもらうことができました。

高校生にとって普段話す機会もない幼稚園の生徒に教えるのは、なかなか大変でしたが、最後にできたしおりをととても喜んでいたり、その後も、エレベータなどに張ってある点字に興味を示していると聞くと、うれしくなりました。



海外サマープログラム説明会のお知らせ

小野寺文江
カウンセリングセンター

日時：11月29日(木)、3:45pm ~ 5:00pm

場所：3階会議室

対象：SIS生徒・保護者

参加申込：カウンセリングセンター小野寺へ電話かEメール、
あるいは直接来室してご連絡下さい

カウンセリングセンターでは、海外の様々なサマープログラムについての資料を揃え、ご希望の生徒・保護者の皆様に情報を提供しています。「長い夏休みを利用して、海外で勉強したい」「どんなプログラムがあるのかな」「英語に自信がないけど大丈夫?」「いくらぐらい?」等、ご質問やご興味がある方は、是非ご参加下さい。

まだ来年の夏の事を考えるのは早い気がしますが、人気のあるプログラムは2月か3月には募集締切りになってしまいますので、お早目の情報収集をお勧めします。今回は過去にSIS生徒が参加したプログラム例や、リサーチの方法・ヒントを中心にお話します。

注) 9年生が参加する「SISオーストラリアホームステイプログラム」とは関係ありません。カウンセリングセンターで紹介するのは、個人で選択し、参加するプログラムです。なお在学中の1年間(迄)留学については、まずカウンセラーと面談予約をとって下さい。

(直通番号：072-727-5061 Eメール：fonodera@senri.ed.jp)

APAC

Choir Concert

箕面市メープルホール

11月17日 5:00 pm

入場無料



保護者会だより

●「保護者会だより」文責：保護者会 Public Relations Committee
ホームページアドレス <http://www.sispa.jp>

保護者会活動報告・予定

保護者会の活動を次の通り報告いたします。

■ Board

◎第三回定例会

10月4日(木) 10:30～3F会議室
学校から大迫校長先生とルイス事務長のお話。各委員会から活動報告。また、次期委員会選出方法についての話をしました。

◎次回第四回定例会

11月1日(木) 10:30～3F会議室の予定

定例会は保護者の方のどなたでも出席していただけます。たくさんの方の参加をお待ちしています。定例会では、校長先生の素敵なお話を拝聴できる機会もあります。

(下記参照)



大迫校長先生のお話 @ 定例会

(第三回保護者会定例会の大迫校長先生のお話より抜粋)

私は今まで、世界中のインター校を訪問しました。どのインターでも共通していることは、勉強だけでなく、芸術・スポーツにも大変力を入れているということです。その表れとして、メイプルホールと同等規模のシアターを所有していたり、とても大きなグラウンドを持っていたりします。皆さん、最新のインターカルチャ (No. 113号) はもうご覧になっていただけましたか。最後のほうに初代校長の藤澤先生のお話が載っています。S I S設立当時のことを連載してくださっています。私の手元には、次回(今月号のこと)の原稿(今月号のこと)がありますがその中で、音楽をS I Sの特徴の一つにしようとして考えておられたことが書いてあります。インター校は世界の子供が集い、芸術・スポーツが世界共通言語として大切にされます。これは、S I Sの特徴でもあり、同様に大事にすべきものだと思います。普通、日本の高校では、3年生になり大学入試が近づくと、引退し、いろいろな活動をやめていきますが、S I Sでは、何事も自らの選択に任せ、授業でも最後まで自由に、スポーツも芸術も選べる環境を整えています。S I Sは、Japanese International Schoolとして、日本の学校とインター校の中間より少しインターよりの位置で、両方のよさを取り入れることに、挑戦しているつもりです。

世界に通じる人間を育てる。それが強いては、1人1人の人生を豊かにするために、スポーツとアートの両方を大事にし、国際学校として、がんばっていくつもりです。

■ Hospitality Committee

現在、10月25日から行われる男子バレーボールA P A C及び、11月15日からのコーラスA P A Cの準備をしております。皆様からのドネーション(デザート、スナック、料理など)をお待ちしております。写真は、6月のスポーツバンケットです。

■ International Fair Committee

S I S・O I S合同I F委員会

11月1日(木) 13:00～
フェアご協力お願いのお便り配布
10月25日(木)

■ Public Relations Committee

10月 インターカルチャ 10月号
発行・11月号編集・校正。ホームページ運営。

■ Network Committee

秋学期からの編入生で地域ネットワーク参加希望の方の名簿作成と、住所などの変更があった方の変更作業をしました。

O I Sに在籍されている方でも各地区で開催されている親睦会に参加しやすいように、O I Sの“Bulletin”に案内の掲載を依頼し、同時にスクールサービスセンターの横の掲示板にも掲示しました。

各学年で作成した連絡網のメールアドレスの変更がある場合、お手数ですが学年委員までご連絡お願いいたします。

お母さんあけがた



2007年度PRコミティ特集記事

卒業生は今? Vol.2 ~ 卒業生からの便り 大学上級生編 ~

シリーズで、いろいろな卒業生を追ってお話を伺っていますが、今回は、国内外の現役大学生（2～4年生）のみなさんです。自分のやりたいことや目標をみつけて、充実したキャンパスライフを送っておられる卒業生のみなさんから、何か得られるものがあるのではないのでしょうか？

今回も質問形式で聞いてみました。

- Q1. 大学生活の様子
Q2. SISで学んだ事で役にたっている事
Q3. 就職活動について（やっていれば）
Q4. SISの生徒達へのアドバイス
Q5. その他何かあれば

（PR委員 矢野 祐利香）

獅子倉 玲奈さん

（トロント大学 2年生 Communication, Culture and Information Technology（メディアと文化とITの混合）メジャーとジャーナリズムと人類学のダブルマイナー）

A1. 大学生活といえば、やはり「勉強」です。信じがたいかもしれませんが、勉強ばかりしています。トロント大学は、カナダの大学の中で唯一金曜日の夜にでも図書館に人がいる事で有名だそうです（確かにそう）。特に試験期間になると図書館は24時間人でいっぱい。人が多すぎたり、どうしても席がない場合は、コンセントがある壁を探して（パソコンの為）地べたに座って勉強をする人を見る事も少なくありません。

ですが、トロント大学の生徒たちは「両立」が非常に上手です。それは、やはり「勉強」と「遊び」の両立。どれだけ遊んでも、どれだけ週末ずっとパーティーしていても（毎週末必ずある）、授業には必ず出席し、ちゃんとノートとって、テスト期間になったら必死に勉強をし、ちゃんと良い成績をとる。はじめがつけられて、やる時はちゃんとやる人達と一緒に生活するのは私にとってとても良い刺激となっていて、それがとても良い大学生生活につながっています。

A2. まず、SISに通っていないければ私はこの大学ではやっていけなかった、と言っても過言ではないと思います。でも一番役立った事はSISの生徒でありながらもOISの授

業（IB EnglishとIB History）を受けられた事です。自分なりにIB EnglishとIB Historyでエッセイ力と話す力を上げて、SISのHレベルの英語で文法とボキャブラリー力を上げていきました。願書を提出する時に大学側からIB examsの結果は必要ないと言われたので、最終試験は受けませんでした（certificateももらわなかった、ということ）、SISの日本人の生徒でIBの授業を最後まで受けていた、という事で大学側から高く評価されたと思います。たまに最終試験を受けないから授業を受けても意味がない、という事で途中でIBをやめてしまう生徒達もいますが、私はIBの授業内容が大好きだったし、海外の大学に行くならばみっちり英語力を上げたかったので最後まで受けました。今大学でもIBの授業で学んだ事は非常に役立っています。

A3. 就職活動はしていませんが、将来の就職に役立つかもしれない、という仕事はしています。SDI Mediaという映画の字幕／ダビング会社の日本語字幕編集者としてパートタイムで働いています。これはたまたま大学のホームページの就職検索サーチで“Japanese”と入力したら出てきたので、履歴書を送って6時間もかかる通訳テストを受けに行きました。結果は2ヶ月後メールで送られてきて、なんと1/8の合格率で受かったという事。とても驚きました！夏休み中に受けたので、9月から始めて、今まだ研修中です。仕事内容はとても難しいです。SDI独自のプログラムで編集し

た字幕と映画をくっつけて、そこから作業は始まります。字幕と音声が入ってくるタイムがあっているか、字幕のルビが文字の真上にあるか、等々、仕事は沢山あります。

A4. SISの魅力の一つは授業選択の種類の多さだと思います。例えば、「英語」という科目だけでも色々な違う面から英語が学べる。私の中で一番刺激的だった授業はMUN（模擬国連）でした。こんな素晴らしい経験を英語の授業として受け、英語力を伸ばしながらも会議に大使として出席できる。ちょっと大きさに聞こえるかもしれませんが私はこの授業のおかげで人生が変わった気がします。それまではニュースや国際情勢などに全く興味がなかったのに、この授業一つで大変興味を持ち、今では大学でもMUNに入りました。去年はマギル大学の会議にキルギスタン共和国大使として出席し、今年は大使だけではなく大学のMUNクラブのPR代表として多数の会議に出席します。これも全てSISの授業の種類の多さのおかげだと信じています。SISの生徒の皆さんも今受けている授業、そしてこれから受ける授業をただの授業だと思わずにその授業とプラスαの何かだと考えて勉強したらいいと思います。「自分がその授業から授業内容以上に何を得られるか？」それを自分へのチャレンジだと思って受けてください。



UNIVERSITY

津田 仙純さん

(上智大学 国際教養学部 3年生)

A 1. 私は千里国際学園を2005年に卒業しました。卒業後は上智大学比較文化学部(現・国際教養学部)に進学し、今年で3年目です。大学では国際ビジネス・経済を専攻しております。戦後から今に至るまでの日本経済・企業の発展や、海外通貨レート・株価のアナリシスなど経済やビジネスを日本からの視点からではなく、外からの目で見、研究しています。授業はすべて英語で行われ、周りにいるクラスメートのほとんどが海外からきた留学生です。そういった環境で勉強することは千里国際学園のようですが、比較文化学部では自分が学びたいことを専門的に英語で学んでいます。

大学の課外活動では、ハロハロの会というサークルに所属しています。フィリピン・セブ島の貧しい地域の子供たちに栄養のある食事を配給するフィードィングセンターをNGO団体と共同で支援するサークルで、今年から会長も務めています。他にも、JFY(Japanese Filipino Youth Education Program)という組織で、日本とフィリピン人の間で生まれた子供たちの教育プログラムでもユースリーダーを務めています。その一つの活動として、フィリピン在住で父親を喪い日本国から援助を得られない子供たちに、日本という父親の国でありながら未知の国を知ってもらおうとチャリティーコンサートやバザーやスポンサー探しなどをし、彼らが日本に来られるよう努力しています。

アルバイトは英語力を活かし、イングリッシュティーチャーとしてインターナショナル保育園で2歳から5歳児の子供たちに英語を教えています。ジャスト・フォー・キッズやサタデー・スクールにアシスタントティーチャーとして参加した経験を、アルバイト先で活かしています。

アルバイトの他に、大学生活での自由時間を活用するために私は夏休みや春休みを旅行に費やしています。ヨー

ロッパや東南アジア、中東やエジプトなどの街を歩き回っています。学期中での自由時間は親の研究の手伝いとして自分の家系のルーツを研究しています。

A 2. 一つの視点からではなく客観的に、あるいは第三の目で物事を見るということを私は千里国際学園に通うことで得たと思っています。それは千里国際学園が他の高校では学べないこと、経験できないことを私に与えてくれたからです。私が高校3年時にフィリピンへ一年間留学できたのも学校のご理解を頂けたからです。

A 3. 今大学3年生なので、大学後の進路もそろそろ考えなくてはなりません。私は大学院に進むのではなく、就職し、社会へ出る道を選びます。映画配給会社や商社などの企業に勤められたらなと願っております。

A 4. 在校生の後輩には、千里国際学園でしか得られないものを見つけ、今後活かしてほしいと思います。積極的に新しいものにチャレンジをし、自分がやりたいことを見つけてもらいたいです。

安藤 ゆかりさん

(京都教育大学 教育学部 4回生)

今でも毎号欠かさず馬場先生がインターカルチャーを送ってくださるおかげで、自分にカツが欲しい時に必ず読むことができています。

A 1. 今のところ順調に大学生活を過ごしており、卒論さえ書き終えたら来年春には無事卒業できそうです。そんな私の大学生活の前半は、6年間のS I S生活とのGAPを埋めるために必死に過ごしていました。私は京都教育大学に入学し1週間くらいたったころから、入る大学間違ったかな?と思うくらい戸惑うことが多くS I Sシクにかかっていた。私が一番驚いたのが、みんな同じ時間割を組もうとしていたり、同じような服装をしてい

たり、とにかく周りのみんなが同じに見えてしょうがなかったことです。でもS I Sシクについては先輩方からもよく聞いていたこと(大学に入った頃はS I Sに戻りたくなるという話)だったので、いつか楽しめるようになるだろうと信じ、めげずに毎日サボらず(笑)大学に通っていました。するといつの間にかGAPは消え、大学になんとか馴染んでいました。そして、大学生生活後半について転機が訪れました。それは、大学3回生9月にあった教育実習です。附属小学校での実習で子どもが大好きなことを再認識しました。そして子どもについて大学の友達と話したりするのがすごく楽しくて、もっともっと子ども・教育についての勉強をしたいと強く思い、大学へ行くのが楽しくなりました。

A 2. S I Sで学んだことで役に立っていることは、たくさんあります。一つ目に、授業中に先生に質問することを恥ずかしいと思わないことです。これは学んだというよりは、S I Sで過ごしていると自然と身につくものだと思います。大学で授業中に質問する人はほとんどいないので、おかげでたくさんの先生方から名前を覚えてもらいました。二つ目に、自分の考えをしっかりと持ちそれを人に伝えることができることです。三つ目に、S I Sでは周りにすぎすぎる人が多くて気づかなかったけど、意外とついていた英語力です。四つ目に、……、って書き出したらキリがないです。私は本当にたくさんのことを学びました。本当に本当にありがとうございました。

A 3. 就職活動についてですが、私は途中で方向転換したので詳しくは語れませんが、就職活動始めの方は、12年生時のAO入試や推薦入試の際の資料作りに似ていると思います。小学校の先生になりたいと思って入学した大学でしたが、一時期は企業就職を考えインターンシップ(企業での就業体験)にも参加しました。でも、やっぱり私は子どもが大好きで、卒業後は「先生」

という道を選びました。私が子どもが大好きと認識するようになったのは、Avery先生のChildren's literatureという英語のクラスでO I Sの幼稚園に絵本の読み聞かせに伺ったのがきっかけです。

A 4. きっとみなさんの今のS I S生活の中にも将来の自分へのヒントがたくさんつまっているはず。色々なことへのアンテナを張り巡らせて、たくさんを感じながらS I S生活を過ごしてください。これが、私から皆さんへのアドバイスです。最後までご精読ありがとうございます。また近いうちにS I Sにおじゃまします♪♪



川喜田 顕 エドワードさん

(オレゴン大学 物理専攻 4回生)

A 1. 昔は曇りと雨が非常に多い天気によく憂鬱な気分になっていたのですが、最近ではすっかり慣れてしまっただけで雨が降ろうと傘すら差さずに外を歩くほどです。・・・と言うと普段びしょびしょになって生活しているように聞こえますが、実際は雨は降ると言っても小雨程度がほとんどですし、授業を受ける建物もそう遠くなく、また受ける授業も多くて一日に二つ三つであまり外を歩かなくて済むので問題なく過ごしています。

4回生にもなると授業の方はS I Sの頃でいう12年と同じように必修の授業はほとんど終わらせているのでとっている授業の大半は専攻の学問、私の場合は物理、になります。

1、2回生の頃は授業は基本的には1時間を週4回という形でしたが、最近では2時間を週2回や3時間を週1回という形になってきて、正直な感想を言うとずーっと授業に集中しているのが少し大変です。「休憩を入れるからね～」と言いつつぶっ通して2時間講義し続けた先生も居たりして、なかなか苦勞する事もあります。

また今学期からは大学の研究室のお

手伝いをする事にもなったので、当たり前といえば当たり前なのですが一日のほとんどを物理の教科書と機材に費やす事もあります。それに加えて課題も結構な量が一週間毎に出されたりするので、授業がほとんど無い日であってもしっかりと課題に手をつけないと後々痛い目を見る事になってしまいます。私自身も恥ずかしながら何度も痛い目を見ました。

ついこないだの出来事ですが、一週間のうちにいつ課題をやりいつ遊ぶか、というスケジュールを立てて過ごしていたところスケジュールに組み込み忘れたイベントがあってその影響で二つの課題を前日に全て片付けなければならないという事態に陥り、結果一晩丸々かけてじっくり仕上げる羽目になりました。後悔先立たずとはよく言ったもので、こういう出来事があるといつも「もっと早く課題に手をつけていれば」と思うのですが、喉もと過ぎれば熱さを忘れるというの言い得て妙というか、わりと似たようなことを何度も昔は繰り返した気がします。最近はずすがに少なくなりましたが。

それ以外にも今学期から初めて寮の外で生活するようになって自分で料理などをするようにもなりなかなか忙しい日々が続いています。しかし、どんなに忙しくても辛いことがあっても、たとえばルームメイトが関取のような体格をしていて自分自身が部屋に居る物理的なスペースが物凄く限られていても寮の食堂で出る茹でたブロッコリーが触れるだけで崩れるぐらい脆くて味がしなくても近くの「日本料理店」にカツ丼ならぬ「カツラーメン」なるものがあったり火災報知器が毎月必ず一回は誰かの悪戯で鳴っても、やっぱりアメリカに来た事自体は正解だと思っています。そういう意味で、アメリカに来る機会を与えてくれたS I Sという学校には非常に感謝しています。

A 2. 私は父親がアメリカ人、母親が日本人のダブルで二重国籍を持っているのですが、生まれも育ちも大阪で

した。小学校は普通の公立の学校に行き、英語はほとんど話せませんでした。

そんな私が英語を話せるようになった、且つアメリカの大学に入る事になった、入る事が出来たのはひとえにS I Sの英語の授業、それ以上にS I Sという学校そのもののおかげだと思います。S I Sに居なければ見た目はどうあれ中身は一般的な「日本人の学生」としてアメリカに行く事を考えもせず日本に居続けていたでしょうし、たとえ考えたとしてもS I Sでなければアメリカに行きたくても勉強出来るだけの英語は学べなかったと思います。

そのような点でS I Sに通えたことはとてもよかったと思いますし、それを差し引いてもS I Sに居る事で出来た経験は自分の心の支えにもなっているのは間違いありません。

A 4. 現役のS I S生徒の皆さんも今はしっかり勉強、学問的な意味だけでなく人生、といったら大げさですがS I Sに居る事で出来る事をやっておくと、後々色々な事に役立つと思います。めいいっぱい学生生活を楽しんでください。

保城 早耶香さん

(京都女子大学短期大学部文学科英語英文専攻を卒業後、京都女子大学文学部英文学科に編入現在3回生で、役者を目指して、デュークウォーキングや東映俳優養成所に通学)

A 1. 私は短大卒業後、編入し京都女子大学の三回生として英文、主にシェイクスピアのハムレットについて学んでいます。学内は女性だけというかなり異質な空間の中で、女子大ならではの女性視点から見た文学や社会や歴史について学ぶ事が出来ます。サークルや部活活動の面では、まず入学式に最寄り駅から大学の校門まで、新入生サークル呼び込みのチラシを持った他大生から必死に勧誘される事から始まります。私は2回生まで京大主催の社交ダンスサークルに所属していました。表では華やかに踊り、裏では年中Tシャツに白いスカートに慣れないハ

イヒールを履いて毎日朝も夜もパートナーと練習する世界がそこにはありました。S I Sでは自由奔放にしていたので、先輩後輩の上下関係や媚びを売る事など日本社会を苦しみながら学ぶ事もありました。関西の新人戦で優勝をし、1つの事を熱中し努力すれば必ず実を結ぶという事も学びました。文学的に学べるのはもちろんの事、多くの人と出会う事で自分自身を見つめ、経験値を上げられるのが大学の魅力だと思います。

A 2. 卒業後、ファイブ・リスペクトの奥深さに気付きました。

自分の意思と目標を常に持てば生活は無限に豊かになり(自分を大切に)、他人の話を素直に聞く事で視野は広がり(他人を大切に)、死ぬまで勉強する気持ちを大切に(勉強を大切に)、自分や相手の置かれている環境を考え(環境を大切に)、リーダーの立場から考え、フォローする気持ちを考えて行動する(リーダーシップを大切に)という5つは何をする上でも必要な事です。

過去に様々な背景を持つ人と付き合っていく時に最低限のこの5つのルールを常に頭に置いておけば、大抵の問題はスムーズに解決出来ると思います。

またプレゼンテーションやレポートの作り方を学んだ授業も役立っています。自分で考え、自分で行動する能力をS I Sで高めておくと大学の専攻を越えて関心事を自分で追求する事が出来、更に学生生活が濃いものになっていきます。

A 3. 私は現在、大学と並行して役者になる為に俳優養成所とウォーキングに通っています。ドラマや映画の脚本や監督をなさっていた名のある先生のもとで演技やダンス、礼儀作法を学んでいます。人を演じるのは人であり、演技力を高めるには自分の外見だけでなく、内面を高める必要があります。自分自身を知る事から始まり、「本物」を五感で感じる為に小説や美術作品、素晴らしい人に出会い、経験を重ねる事で自分の引き出しを増やす事が求められます。演じる事は自分を磨く事につながるのです。

就職活動でも同じ事が求められると思います。自分は何が出来て、どんな人なのかを知り、それを生かすにはどうしたらいいか考え、行動する。その引き出しが多く奥深い人ほど魅力的なのは社会に出ても同じなのではないでしょうか。就職活動は自分の道を探していく作業でもあるので、それを通じて人間的に成長する人が多いようです。私も経済的自立と社会勉強の為、就職活動をしています。色々な「気付き」があります。その「気付き」を重ねる事が成長なのだと思います。

A 4. パワフルな先生方や個性的な仲間達と、枠にとらわれず多くの事を吸収し表現出来るのがS I Sの本当に良い所です。自分のしたい事を実現する為の能力を高める場としてS I Sをどんどん利用して下さい。S I Sで学ぶ事は直接、大学や社会

で実践できることばかりです。パフォーマンス能力やプレゼンテーション能力、レポートの書き方、語学力や考え方など、どれ一つを取ってもS I Sで真剣に取り組むと全て自分の強い武器になります。そしてS I Sで6年間共に過ごした仲間や先生は一生の友達、恩師になります。卒業後もなおS I Sは良かったと思えるのは、S I Sに関わっている人々が皆燃えているからだだと思います。何事も素直に真剣に取り組んでみてください。それは必ず自分の夢や目標に繋がっています。

A 5. 私にとってS I Sは原点です。在学中、英語演劇部(EDC)に所属したり、APACコースで練習を重ねたり、生徒会選挙に立候補したり、宝塚音楽学校受験と大学受験を同時期にトライしてみたり、自分の劇団「劇団保城」を作ってみたり…と色々なことに挑戦しました。自分を目標に近づけようとする何枚もの壁にぶち当たります。多くの仲間や先生方に助けられ、その壁を必死に乗り越えてきました。乗り越えた壁が多い程それは自信になります。

今も壁は何枚もありますが、乗り越えられた過去があるから自分を信じて、またがんばろうと思えます。目の前の壁を確実に乗り越えていく事が実は一番の近道で、夢に近づき、自分が成長しているからこそ新たな壁に当たるのです。

S I Sでなるべく多くの壁を乗り越えてください。見守ってくれる人が大勢いて、サポートしてくれる場所を提供してくれているのがS I Sです。

★ Photo Corner ★



スポーツ・ディ10月17日
G9 チアママ達



APAC 10月25日
ドネーション 手作りデザート



撮れたて

保護者会のとびら



8年生の保護者です。入学後すぐのペアレンツイブニングも懇親会も逃してしまい・・・人付き合いが下手で、知り合いもいなかった私は、保護者会室や会議室の扉を少し重たく感じていました。その扉、軽くする方法はないのでしょうか？誰かに教えてほしい！そんな思いを込めた特集です。

(PR委員 伊沢 由紀)

保護者の皆さん、

楽しんでいますか？

9年、12年生保護者 吉積 須美子

12年と9年に2人の娘がおります。いつの間にかこの学園の最上級生の親となってしまいましたが、今でも思い出すたびに心躍る瞬間があります。

Just For Kids や Saturday School で幼稚園の頃から千里国際の校舎に親しんで育った子供たち。我が家のアルバムには、小さい頃から毎年どこかのページに千里国際でのスナップがありました。おのずと「行きたい中学校はS I S」となるわけですが、一般生入試の独特のシステムに最後までハラハラドキドキ！それ以外の未来を思い描いていなかっただけに、合格通知が届いた時の喜びは何物にも代えられないほど大きなものでした！

待ちに待った入学式。入学資料の中に見つけた「Parent」カード。きらきら輝くボールチェーンのネームカードを頂いた時のうれしさは今も忘れられません。学校説明会や学園祭で見かけた、在校生保護者がされていた“本物”の「Parent」カード！Just For Kids や Saturday School で頂く「Parent」カードより何倍も輝いて見えた憧れのネームカード。どんなに望んでも子供が入学しなければ手に入らないだけに、ついに自分もS I Sの「メンバー」になれたと思うとうれしくて、思わず胸に抱きしめました。あれから6年、「Parent」

カードと共に過ごした私のS I S生活にも楽しい思い出がいっぱいできました。

一般生、帰国生、編入生、すべての新しく入学された保護者の皆様、「S I Sへようこそ！」お子さん同様、保護者の皆さんも学園生活を楽しんでおられますか？皆さんいろいろな思いを胸にS I Sへ入学された事と思いますが、どんな思いで入学されても、「Parent」カードを掛けた私たちは皆“同士”です。“同士”のネットワークはできましたか？

帰国生保護者の皆さん、日本とは違う生活で苦労したこと楽しかったこと、雇っていたメイドさんの事etc. 気楽に話せる場をお持ちですか？S I Sなら大丈夫！共感してくださる方が沢山います。「この夏はどこに行くの？カナダ？オーストラリア？」S I Sならではの情報交換の場もあります。

年の功？一保護者の私ですが、S I S保護者会には保護者同士心を通い合わせることができる場が沢山あるのをご紹介します。

学年の懇親会やインターナショナルフェアの学年ブースに参加すれば、学年・クラスの事、お友達や授業の事、子供から伝えられていない情報（テストの話！などなど）が聞けます。地区懇親会では、いろいろな学年の方と出会えるので、学校の事や受験の事、地域独自の情報交換ができます。通学方法・塾・はては生活情報まで飛び交います。卒業してからも交流が続く仲の良い地区もあるようです。

保護者会委員への参加はS I Sに

慣れる近道です！学校の先生方（委員会に関わりのある先生、学年の先生）とお話しする機会ができ、相談もしやすくなります。学園の1年の流れもわかりますし、格段に保護者同士の交流が広がります。最近はお父さんの参加も増え、ますますいい感じですよ！

あと、S I Sに来たばかりの方にお勧めなのが、APACの食事サービスの“お手伝い”です。空いた時間の範囲内で、単発でできる手軽な保護者会のボランティア活動です。いろいろな学年の方がいらっしゃっていますが、初めの頃は誰もが“ベテラン保護者”に見えるかもしれせん。7年の保護者といえども上の子がS I SやO I Sを卒業して下の子の入学で再登場という方もいらっしゃいます。委員が終わると淋しくて、少しでも学校に関わりたくところに来るのを楽しみにしている方もいらっしゃいます。一方、普段お仕事で保護者会に参加できない方、上級生保護者でもお友達作りに初参加という方も多くいらっしゃいます。案ずることなかれ！料理を作りながら、ジュースを配りながらの会話だから、気軽に参加可能です。O I S保護者が来られることもあり、インターナショナルなおもてなしに感心したり、保護者同士意外なつながりを発見したり、参観と違い素のままの子供たちの様子も見られるし学校の情報も入ってくるし、一石二鳥いや三鳥です。子供の心配事がみんなのアドバイスでパーッと解決なんてこともありました。ゴスペルクラ

ブなんて楽しそうなサークルも生まれましたね。

沢山の小さな出会いが積み重なるうちに、子供の学校という枠を超えて、保護者自身にも心安らぐ場を与えてくれる雰囲気がある保護者会にはあります。参加するうちにS I Sを自分の母校のようにますます好きになる保護者がたくさんいます。「子供が学園を巣立つ時、一番淋しいのはあなたじゃないの？」って言われている方、沢山顔が浮かびます。「Parent」カードを掛けた私たちは皆“同士”です。さあ、ご一緒に楽しみましょう。



保護者会の委員を経験して

8年生保護者 堂腰 清美

5歳ずつ歳の違う3人の子どもたちが、S I Sにお世話になっていきます&いました。

長男がS I S（そのころはO I Aでした）に入学したのは、今8年生に在籍の末っ子が2歳のころ。その上、京都市内からの通学だったので、「小さい子もいるし、家も遠いし・・・」と最初の何年間かは「クラスマザーは他人事」として過ごしてきました。学校へ来るのも必要最低限。学年の懇親会（これは男の子はまったく自分に不都合なことは話さないで、お母さんたちと交流して情報を得る貴重な機会）と担任の先生との個別面談のときだけ。スポーツディもコンサートも学園祭も、保護者会行事も、ほとんど参加せずの4年間を過ごしました。今思えば、学校のことはまったくわかっていなかった、わかろうとしなかった4年間でした。

初めてクラスマザーにとのお声が掛かったのは、末っ子が小学校へ入学する直前の1月のこと。ほとんどのお母さんが委員を経験されたあとでもうさせていただくしかないとお

引き受けしました。

それが7年前のことです。その後この春卒業した娘の学年で5年前に、そして今回末っ子の学年で3度目の委員をさせてもらっています。

7年前はまだ、（原則として）全委員が毎月の定例会に出席することになっていました。ほとんど会議室の全席を埋め尽くす人数の委員たちが出席して毎月行われる会議は、時間もたくさんかかり、いろんな人がいろんな立場でお話され、またその年の執行部が大改革を試みられていたので、精神的にもしんどい会議でした。でも、その場にいらさせていただくことで、保護者の皆さんのやる気、学校への熱意、そしてそれに応えてくださる学校の姿勢を直接に感じる事ができ、学校への信頼、理解が増す思いがしました。また、大胆な改革を全委員が出席する定例会で検討され、決定されていく過程に、保護者自身が保護者会を変えていく力を持っていること、学校もまだ新しく日々進化していくと同様、保護者会もまだまだ形が決まらずに、そのときその場にいる人がよいと思う方向へ持っていく柔軟性を持っていることを教えられ、とてもうれしく思ったことを記憶しています。

5年前は今のホスピタリティ委員に当たるボランティア委員をさせていただきました。それまでは、遠路と末っ子が小さいという理由をつけて、幾度もいただいていたボランティア募集のお手紙も、これまた他人事とほとんど無視（そのころの委員さんたちごめんなさい）。

そんな私が、ボランティア委員。簡単なお手伝いさえ経験したことのなかった私は、「しんどいやろな?」「どうしよう?」という気持ちでいっぱいでした。

でもいざ行事があると・・・（そのころは）決して少なくない数のS I S / O I Sのお母さんたちのお手伝いがあり、学校・学年・地域を越えて、

お米を研ぎながら、おにぎりを作りながら、いろいろなお話に花が咲きました。たくさん良いことを教えていただきました。そしてこの学校には、本当にボランティアで子どもや学校のために動いてくださる保護者がたくさんいらっしゃることを知り、驚きとともに感動もしました。

その年はA P A C女子バスケットの会場に当たっていたので、委員でなければ決して見に行かないだろうバスケットの試合を見たり、P Eの先生方とお知り合いになれたり・・・また「来んでもいい。来たらあかん」ときつく言われて、演奏させてもらっていたのに長男在学中は一度も行ったことがなかったメイプルホールでのコンサートも、オールスクールプロダクションも、そのころのボランティア委員をさせていただいたからこそ、のぞかせていただき、すばらしさを知ることができました。以後は、ボランティアもいろいろな学校行事も、事情が許す限り、参加させていただくことにしています。

そして今年、末っ子の学年でボードの会計をさせていただいています。2度委員を経験させていただいたものの、まだまだ遠かった保護者会の全体の会計収支や総括的な活動にかかわらせていただくことになりました。まだなにも大きな行事を済ませていない今の段階では、ドキドキ感のほうが大きいのですが、きっとまたワクワクの気持ちで皆さんにお伝えできる経験をさせていただくことになると思います。

正直、委員を引き受けるのは勇気がいるし、遠方から学校へ行くのはしんどいものです。でも、委員をさせていただいたから、より保護者生活が楽しくなったことは間違



いありません。

ぜひ、無理のないところで、たくさんの人たちに気持ちよく委員体験をしていただけたらと思います。



S I S に魅せられて

8年生保護者 川畑 徹

私のうちには娘が2人いまして、下の娘がS I Sにお世話になっています。私たちが住んでいるのは、学校から自転車で30分程の吹田市山田というところで、私も娘もおじいちゃんも通っていた近くの小学校は4年程前に130周年を迎えました(昔は尋常小学校ですが…)。そんな村のような所に住んでいると、S I S / O I S がとても輝いて見えます。学校によっては、理念だけは「生徒の自主性を尊重」とか「一人ひとりの可能性を育てる」とかいかっておいて、実は大人が管理しやすいよう

に子ども達を枠に閉じ込めている場合が見受けられますが、S I Sはそうではなく、本当に生徒の個性とやる気を伸ばしてくれる学校で、ここを選んで本当に良かったと思っています。

そんな学校の事を少しでも知りたく、また、ここで学ぶ子ども達の何か役に立てたらと、昨年は軽い気持ちでクラス委員を引き受けてしまいました。今だから言えますが、とにかく1回目の学年懇親会を開催し無事に終了するまで、どれだけ心配をしたことでしょうか。保護者同士や先生方との顔合わせがあり、インターナショナルフェアでの出店の話など内容が盛りたくさんで、無事に終わった時の“安堵感”は、つい先日の事のように思い出されます。もちろん、1人では何も出来なかった訳で、他の委員さんをはじめ、その時々いろいろな方に助けて頂き、お蔭様で1年の最後には、たのしいパー

ベキュー大会で締めくくることが出来ました。(感謝)

さて、今年は2年目で、委員とかは何もやっていませんが、やはり出来るだけのお手伝いをしなければ…、いや、やりたいなどと思っています。

せっかく縁あって娘がS I Sに入学し、こんなにめずらしい?学校はそうあるものではありません。また、学校とのかかわり方には、いろいろな形があると思いますので、ぜひ、積極的に、楽しんで頂けたらと思っています。特に、お仕事をしておられて、おいそがしい保護者の方々が多いと思いますが、その知識・経験こそが保護者会活動には必要とされていますし、さらに学校を良くしていくものだと思信しています。

みなさん、目の前に(S I Sという)ご馳走がありますが、食べますか? 食べませんか?



いよいよ 11月23日(金・祭) 10:30 ~ 開催!
~インターナショナルフェア~
今年のテーマ: Around the World

I FはS I S・O I Sの保護者が力を合わせて開催するお祭りです
みんなで盛り上がりましょう!!

I F委員会からのお願いです

*ボランティア大募集

フェアはたくさんのボランティアによって支えられています。

お手伝い頂ける方は 07fair@sispa.jp まですぐにメールをください。

*寄贈品・クラフト品募集中

収集ボックスを玄関ホールに設置いたしております。

新品・リサイクル品・手作り品などお待ちいたしております。

*エコ活動へのご協力お願い

今年度は繰り返し使えるリユース食器を購入しカフェテリア内で洗浄することになりました。使用済み食器はカフェテリア奥のリサイクルステーション一ヶ所で回収いたします。使用済み食器の速やかなご返却をお願いいたします。



当日は「マイお箸」(割り箸不可)をご持参ください。

★フェアに関するご質問は 07fair@sispa.jp まで★

**O I S 7年生保護者
からのお願い**

S I S 保護者の皆様へ

O I S 7年生は去年に引き続き“Book Stall”を行うことになりました。つきましては、去年と同様参考書や雑誌以外の古い本やCD、DVD、ビデオ、ゲーム類を集めるのにご協力をお願いしたいと思います。

日本語、英語その他言語は問いません。11月22日まで図書館前に収集の箱を設置いたしておりますので皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

保護者からの寄稿

16歳の夏

9年、10年保護者 阪上美紀

それは6年前の夏、私の子どもたちは夏のJFK（ジャスト・フォー・キッズ）に参加し今と変わらないSOISのエントランスに不安そうに立っていました。そんな二人を満面の笑顔で「Good morning!」と毎朝迎えてくれたのがStudent Staff（ガイド）のN子さんとS子さんでした。ガイドは1クラス20人までの子どもたちに大体2人つき、教室の移動や授業中のサポートをして下さるお兄さんお姉さんです。SさんはNさんに比べると少し控えめな感じであり子どもたちにEnglishで話しているところをみかけませんでした。

毎日、朝夕に彼女達と挨拶は交わしていましたがある日娘がArtの時間にはさみで手を切ってしまう迎えに行った際、その時の状況説明と対処を丁寧に簡潔にまとめたメモをNさんが手渡してくれました。私はその落ち着いた態度とお話の仕方にとっても驚きました。子どもたちの中に入ると見えなくなるような小柄なNさんは一体何歳なんだろう？多分、SOISかOISの生徒さんなのだろうけどもしかしたら大学生かしら？と思ったほどでした。翌日娘の「お姉ちゃんは16歳なんだって!」という言葉に私は本当にびっくりしました。「16歳って高校1年生?」

我が家には主人の仕事柄、中高生、大学生が出入りしていますがNさんのようなお嬢さんは見たことがありませんでした。

最終日にエントランスで一緒に撮った写真をお送りしたら可愛いお手紙をいただきました。それは私宛のもの子ども達宛と両方あり、子ども達には勉強になるように日本文の後に簡単な英文でも書かれていました。その後もJFKには参加しましたが残念ながらNさんにもSさんにも会うこと

はありませんでした。でも、年賀状のやり取りや時折彼女達からは「学年旅行に行ってきたよ!」という写真入りのお葉書をいただいたりとお付き合いは細々と続いていました。

いよいよ受験校を決めなくてはいけない時期にSOISという学校は素晴らしいと思うけれど本当に娘に合う学校なのかどうか随分悩み迷いましたが、そんな時に思い出されたのはいつも生き生きとした笑顔でいたNさんの姿で娘にも「彼女のような高校生になって欲しい!」と思ったことが最終的にこの学校を選んだ大きな理由でした。

SOISに無事に合格でき、新学期が始まったところに入学式の写真を同封したお手紙を出しましたがお返事はなく、すっかり忘れていた6月の頃「私はアメリカの大学に進学したのでお返事が遅くなりました。SOISにご入学されて私も嬉しいです・・・」というお手紙と彼女の卒業式の写真をいただきました。そしてその夏休み、3年ぶりに彼女と再会を果たしました。

すっかりお年頃のお嬢さんになられたNさんでしたが相変わらず明るく生き生きとした表情でアメリカでの大学生活を語ってくれました。一方SOISに入学したての娘は色々なこと、授業、クラブ活動、APAC、生徒会のこと等まだまだ分からないことについて、また親の私も「大学進学のことはいつぐらいから考えていたの?」などと二人で質問攻めにしました。Nさんはいやな顔ひとつせずひとつひとつに丁寧に答えてくれ、逆に今の学校の様子を聞かれたりと気がつく北千里のコーヒーショップで4、5時間を過ごしていました。

お話の中で一番驚いたのは帰国生だと思い込んでいた彼女に「いい私でも一般生ですよ!」と言われたこと、控えめで私は一般生と思い込んでいたSさんは実はOISの生徒さんだったこと、そして

「私達生徒会の会長コンビだったんですよ!」という言葉でした。

翌年はお会いできませんでしたがその2年後、娘が9年の夏にまたお会いしました。

今度は帰国していたSさんとも合流し、息子も引き続き入学できたことをとても喜んで下さって、イヤブックを囲んでのおしゃべりは尽きず途中席を外し一旦家に帰った私が心配するほど5、6時間程でしょうか本当に楽しそうに過ごしていました。もちろん彼女たちが年下の娘に合わせて下さっていたとは思いますが中高6年間全く重なった時期はない3人、卒業式と入学式の写真を交換した3人が同じ学校にいた、いるというだけでこんなに話が弾むなんて私はとても羨ましく思いました。

Nさんは、大学卒業後日本で就職してやっていけるかしら、などと2年前とは少し違う内容の話をし、「控えめ」と当時私が思っていたSさんは終始楽しそうにケラケラッと笑いSOISに馴染んだ今の私が見るとまさに彼女は「OISの卒業生」でした。

娘には「いつでもメールしてね!」と私にまでも「いつでも学校のことで何かありましたらお知らせください!」と、なんとも頼もしいお言葉もいただきました。そしてその言葉どおり時々楽しい写真やメールをいただいています。

お二人に出会えた幸運に本当に感謝しています。

そしてこれからも細くても長いお付き合いをお願いするとともに、子ども達の数歩先を行く先輩方を陰ながら楽しみにずっと応援していきたいと思えます。

この夏、娘は16歳になりJFKで憧れのガイドのお仕事をさせていただくことが出来ました。

Nさん、Sさん、どうもありがとう!これからもどうぞよろしく願います!!



温故知新

みなさま、前号の藤澤先生の手記はお読みいただけましたでしょうか。私の周辺では大変好評で、担当者として、とても嬉しく思いました。今月号の保護者会だよりも、藤澤先生の手記、卒業生の近況、そして保護者の声と盛りだくさんで、先生・生徒・保護者の三位一体と申しますか、他の学校とは一味違った連帯感を感じていただけることでしょうか。

また、4回シリーズでお送りする“温故知新”の第二回は、ハードとソフトです。ハード面では、前号の用地選びや校舎へのこだわりを引き続き、校舎設計について採用が決まった先生方のご意見が取り入れられていること、ソフト面では、国際学校としての教職員採用のご苦労が窺えます。特に音楽については、この学校の特色の一つとしたかったとあるように、藤澤先生の学校への思いは、今でも受け継がれています。そしてみなさまはご存知でしたか？インターカルチャー表紙の題字が藤澤先生の手記であることを。
(PR委員 林 桂子)

千里国際学園創設の時期を回顧して～その2～



元大阪国際文化中学校・高等学校校長 藤澤 皖^{かん}



3、教職員募集と校舎設計

学園を創る以上、よい教職員の集団が必要である。どのようにして教員を集めたか、述べてみよう。大阪国際文化中学校・高等学校(O I A)の学校からはじめる。国内では「朝日新聞」と英字新聞の「ジャパン・タイムズ」に教員募集の広告を載せた。はじめは、履歴書などの書類で選考し、有望な人には大阪の事務所まで来てもらって、面接を行った。(後には東京へも出かけた)。条件としては、人物がよく、学力があり、国際感覚があって英語がある程度出来ること(少なくとも外国人に背を向ける人は困る)ということにした。私が個人的に声をかけて推薦した方は、結局、カウンセラーやライブラリアンも含めて、最後の面接まで進んで、全員合格した。日本人でも英国や米国からもはせ参じた候補者がいた。意外に多かった候補者は、国内にいる英語をネイティブとする人たちだった。それでも、英語とかE S Lの教員免許を取得している人は少なかった。ただ英語が出来るだけで、よい教員になれるとは限らない。公募だけでも人数は、十分であったが、適当な教員を十分には集めることは出来なかった。福田先生を通じて、いくつかの大学に依頼をして、卒業生ですでに教員になっている人のうち、新しい学園の教員に相応しい方を候補者として紹介して頂いた。開校時になってみると、以前からの知人、公募に応じた人、大学に紹介してもらった人、それぞれ、三分の一ずつであった。外国経験の多い方、学士だけではなく、修士や博士の称号を持つ人も多かった。

O I Sの方は、O I Aとの合同授業を予定している音楽、美術、体育、コンピューターなどの教科も含めるので、英語がよく分からない生徒にでも教えられる人という意味で気を遣った。特に音楽については、学校の一つの特色としたかったので、優秀な先生がほしかった。その点、東京のA S I J (アメリカン・スクール・イン・ジャパン)で実績のある先生が応募してくれたことはありがたかった。管理職も大事である。まず、幼小の校長(Principal)と中高の校長(Principal)を選ぶことに力を入れた。国内は、O

I Aと同時に教員募集の広告を出したが、それだけでは人物・学力共に優れた教員を採用することは難しい。インターナショナルスクールの慣習では、2月頃を中心にアメリカその他の各地で、教員の公開募集とも言えるようなTeacher's Recruit Fairが行われる。それまで勤務していた学校から別の学校に移りたい人は、前の年の12月までに申し出るのである。日本では学校を辞める直前まで誰にも知られないようにすることが一般的であるが、それでは後任の教員は選べない。事前に国際学校協会(I S S)発行の「NEWS LINKS」という機関紙にも募集広告の掲載はしたが、実際には、面接が大事である。I S S主催のRecruit Fairは、その年はボストンのホテルで行われた。ウィジー校長、阪急の国際学校プロジェクト主任の山田昇治氏、それに私との三人で参加した。日本人の参加は初めてのこと、ニュース・リンクスの記者から取材までされた。ハーバード大学教授の講演の後、どの学校が、どのような教員を求めているか、学校の説明と共に壁紙に張り出し、テーブルを出して面接の受付を行った。O I Sは現地校との共存校なので、ジョイント・ベンチャー・スクールと呼ばれた。開校時なので募集人員が多いのも、夫婦で同じ学校で教える慣習のある国なので選びやすかったのであろう。O I Sの机の前には、長い列が出来た。面接時間も一人なら20分、二人なら30分程度である。申し込みが多かったので、それでは、割り当てられた時間では間に合わない。ホテルの寝室や食事の時間を削ってまで面接を続けた。

ウィジー先生がもっぱら質問役、私は履歴書などの書類に目を通して、時々割り込んで質問した。二人のカップルが多いが、一人でも適切ではないと思えば、二人ともお断りすることになった。よい人物は、他の学校からもねらわれる。なるべく早く回答する必要があった。推薦状はみんな携えていたが、文面通り、受け取ってよいかどうかは、一概に言えない。校長間のパーティもあって、そこで前任校の人の推薦状の内容が文面通りかどうか、確認をしたり

した。私は、ウィジー校長は個性が強いと思っていたので、彼との相性・性格も考えながら選んだ。大体は二人の意見は一致していたが、時には、ウィジー氏と意見の違うこともあった。理由も述べあうので、大抵は彼の方が折れた。それでよかったこともあるので、こういうことは、一人で決めない方がよいのである。

ボストンの次は、アイオワ州のシダー・フォールズという大学町で行われるリクルート・フェアである。冷たい粉雪の舞う北アイオワ大学で行われた。教育学部主催なのである。ボストンであった人たちとも再会したが、車で4時間の道を走らせて来たという夫婦もいたのには、びっくりした。

後には、良さそうな人がいると知って、ロンドンにも飛べば、シドニーのホテルに作品を携えてきた人に面接したこともある。

外国籍の先生と日本人の先生と契約方法も違っていった。外国籍者は2年単位の短期契約、日本人は長期雇用、就業規則も別々に作ったのであるが、どちらを当てはめるかという問題は残った。千里国際学園特有の問題である。

日本人の待遇は、帰国生の教育という面で、ほぼ同業の同志社国際高校に準ずるとした。学園内に組合が出来ることは教育面ではマイナスになるし、複数校を持つ同志社には組合がすでに出来ていたの、その基準に合わせれば、問題は少ないのではないかと考えたのである。外国人の待遇は、東京のA S I Jに準ずるということで契約に関する規定は作られた。インターナショナルスクールの在外手当については、マサチューセッツ州のハーバード大学に近い、ある総合研究所に妥当かどうか検討を依頼していた。東京と大阪は、物価などほぼ同等であるという確認をとっていたのである。

採用の決まった教科主任の先生には、4月の初め頃、短期間の休みに、日本人教員の予定者も含めて、大阪に集まってもらい、校舎の設計についての意見を聞いた。大まかな設計については変更できないところまで進んでいたが、各教室（特に特別教室）の細かいところ、施設の導入、コンピューターの機種など貴重な意見が沢山あった。小ホールにはオーケストラ・ピットをつくるのか、器楽室の楽器庫、美術室には窯業の部屋が必要などとは思いつかなかった。管理職の者だけで設計しても限界があると思ったものである。

その年の夏には、夏休みを利用して、それまでに決まっていた採用予定の先生方に、宝塚ホテルに合宿してもらった。5日間ぐらいいはあったかと思う。教員同士の共通理解と学園としての教育方針を話し合った。アメリカ人ではあったが、どちらの学校にも属しない第三者の調停者を招いて、全体の進行役をお願いしたこともよかった。

生徒指導については、双方の学園は同じ方針で臨もうということも容易に一致した。あまり校則は作りたくないということでも一致していた。しかし、ガムを口に入れながら発言はよくないし、校内にやたらに捨てられても、くっついて困る。スケート・ボードは子ども同士がぶつかる危険な。ドラッグ・喫煙などは法律で決まっているから問題ないが、ガムとかスケボーなどはダメという説明は面倒であるので校則にしておこうということにした。わずかではあっても、校則はこうして決まった。禁止事項だけでは

なく、積極的によいことを勧めたいということから、五つのリスペクトもこのとき考えられた。学園としての大きな教育目標も掲げたいということになり、Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community という表現もこのとき決まった。日本語では「明日の世界をひらくリーダーシップ」「いきいきとした個性」「友愛の心」としたが、英語の方が先に考えられたものである。英語の表現、特にはじめの2語は含蓄があって、よい表現だと思ったが、適当な日本語訳はなかなか出てこないのには参った。人間形成に大事なことは表現されているように思うが、学校としてのInformed という大事なことが欠けているように思えたのである。

授業の時間割は、スタンフォードで開発されたという制度で、15分単位で、二週間単位のモジュラー・システムにしようという案もこのときまとまったのかもしれない。この制度を採用したので、限られた時間を有効に使おうとして、昼休みがなくなる生徒もでた。そのうち日本側で非常勤講師が多くなれば、時間割の都合で続けることは困難と言うことは、分かっていた。国内の学校の講師は、一校に勤めている人ばかりではない。しかも時間割は大体、曜日で決まっているからである。そのことが表面化する前に、O I Sの小学部で5日制なのに曜日ではなく、祝日をばして、AデイからFデイまで順に繰り返す時間割では、毎週変わるので、子どもたちが覚えきれないと申し出た。小学部だけ別には出来ないの、モジュラー・システムは、一年ぐらい実施しただけで取りやめになってしまった。

朝の始業時間などは、O I Aは9時からがよいといい、O I Sは8時からにしたいと提案したので、中間の8時半始業をとると両者の話し合いですぐにまとまった。教室の清掃という点では、教育的観点から必要という日本人と、掃除に教員も立ち会う以上、教職の専門とは異なるし、スクールバスや課外活動のため、掃除の時間はとれないと主張する欧米人など、両者の意見の対立もあった。国際理解の難しさを実感したときであった。

4、募金と行政など、周囲の協力

設計図と大体の施設導入が決まったところで、経費もほぼ計算できた。募金目標額が設定されたのである。約80億円は要すると思われた。阪急電鉄は土地も提供しているので、どのような形で参加したのかは分からない。三和銀行が中心になって募金活動を展開したことは間違いあるまい。松下電器、住友系など多くの企業が募金に応じてくれた。80億円という膨大な目標額も突破して、83億円程度は集めたい。多分、企業規模に応じて、ある程度の割り当てはあったのかもしれない。経済状況は、まだ上り坂でいわゆるバブルのはじける前であったのも幸いしていた。時期がもう少しおくれたら、この目標額の達成は困難であったに違いない。

インターナショナルスクールとの共存で、外国籍の先生方にも授業を担当してもらい以上、40人学級は大きすぎる。学級定員の適正規模は40名であると、当時の文部省は主

張っていたのである。政府から補助金をもらっていた I C U 高校では、ホームルームとしての学級定員は 40 名以下の人数は設定できなかった。施設についても、欧米人の主張には感心させられた。私には考えも及ばなかった。ただ、生徒数の数から考えて、財政には疎い私でも相当の赤字運営になるのではないかと恐れた。赤字になっても補助金は出すからよい学校を創ってほしいという願いには感激すると同時に、責任も感じさせられた。

学校教育法の 1 条校である中学・高校と各種学校を双方同じキャンパスに建てることは、それぞれ条件が異なるので、容易なことではない。現在の学園前の道路は、将来の計画道路になるとのことで、その道路に面するところは第二種住居専用地域にあたり、建てられるのは各種学校だけという。道路からもっと離れて奥になる第一種住居専用地域には、1 条校の建設は可能であるが、10 メートルまでという高さ制限があった。従って、本来なら、その規定に準じて設計図を描かなければならないのであるが、それでは円滑な学校運営はできない。なるべくその規定は尊重することに、便宜上、各種学校部分と 1 条校部分と分けて、大阪府に設計図を提出した。土地が若干傾斜していたことをうまく利用したことも幸いしていた。校長室を隣り合わせにしないと不便なことは明らかである。いくつかの点で無理があったが、大阪府側も黙認してくれたのであろう。あるいは意識的に見逃したのかもしれない。実際には、現在みるような校舎になった。

さらに、1 条校の教諭の名簿も提出の必要があったが、実技を主にした教科については、インターナショナルスクールと合同の授業を計画していた。英語をネイティブにしている生徒も一緒なので、少し異なるが、今でいうイメージ

ン・プログラムに近い。諸外国の教員免許状が国内でも有効であれば問題ないのであるが、国内の正規の免許状が、全体の教員の三分の二以上の教員には必要であると言われた。大体の外国籍の先生は、臨時教員免許状（通称：臨免）になる。コンピュータの教員免許状などは日本では全く規定がなかった。そのため臨免も認められない。後に、社会人教師のことも取り上げた時に、一年間有効（繰り返しは可能）の特別非常勤講師の制度ができた。この制度は、さっそく利用させてもらった。

帰国生の募集は、府の政策でもあったので、容易に理解されたが、一般の生徒の募集は、他の私立学校では自校の応募者数が減ることを懸念した。そのため、単純に一般生 15 名募集するとは発表できない。既存の学校から定員を分けてもらう必要があった。2 校から、10 名とか 5 名とか定員を譲ってもらわなければならないのである。これらの協力校には、お礼もしなければならなかった。

また、学校用地の近隣には、住宅地の排水用地の建設のためか、農業用水確保のためか、ダムのようなものが準備されていた。学校を建てるのには、工事用の車の往来も含めて、周辺の人たちの了解も得なければならない。その辺のことは、阪急の文技研所長の福田先生や国際学校プロジェクトの方が対応してくれた。（次号に続く）

【筆者プロフィール】

1934 年東京生れ。国際基督教大学（通称 I C U）卒。同高校設立準備より帰国生徒教育に関わり、阪急電鉄の招聘により来阪、千里国際学園設立に参加。1998 年退職後、外務省大臣官房人事課子女教育相談室長の業務委嘱を受け現在に至る。主な著書、『帰国子女教育の手引き』（文部省）『国際理解教育における国際学校の教育』（エムティ出版）『英和対照学習基本用語辞典』（アルク社、監修）『アメリカ合衆国の教育と学習評価』（国際教育交流センター）『はばたけ若き地球市民』（アカデミア出版会）等。

スポーツ・フェイの感想

★ 好天に恵まれた sports day! 色とりどりの学年カラーが混ざり合い、校庭には若さがみなぎっていました。12 年生は総合 2 位と健闘。また「2 人 3 脚」の競技では、チームワークの良さが逆転 1 位となりました。我々保護者席は、テーマカラーのオレンジを身につけて応援に声をからしました。特に注目のオレンジタオルは勿論の事、イヤリング、スカート、シャツ等、そしてオレンジ色の法被をはおっての大声援は迫力満点。子ども達も伸び伸びと持てる力を出し切って、S I S 最後の sports day を楽しんでいるようでした。本日のために、いろいろとお世話になった教職員の皆様、有難うございました。（12 年生保護者 内田恵子）

★ あ〜楽しかった！雨で流れたスポーツディだったけれど二日に渡り楽しみました。パフォーマンス、私はこの学年の男子が弾けているところが大好き。天使とムチのコントラスト、デューク更家ウォーク、そして今年は青春のハグ……。来年はいないのが残念！！最終学年 12 年、パフォーマンスも競技も結果は 2 位。でもそんなの勘ヶネーってちょっと負け惜しみ??? いえいえ、君たちのお蔭で母たちも学園生活を楽しませてもらいました。あ〜オレンジジュースで打ち上げの時に君達一人一人とハグしておけばよかった〜。両日参加できなかった母たちの思いと共に。オレンジタオルを首にかけ、オレンジポンポンを手を持って、君たちの人生いつも、いつでも応援しているよ。（12 年生保護者）

★ 12 年生のパフォーマンスでは、幼稚園児から高校生に成長するまでの姿が演技やダンスによって生き生きと表現されていて、特にフィナーレで全員が、舞台中央までゆっくり歩いていく様子は、卒業を数カ月後に控え、将来の選択の時期を迎えている子供達が一步一步自立していく姿と重なり、見ていて胸がジーンと熱くなり感動しました！全体を通してですが、ダンスなどで盛り上がる場面では学年を問わず賞賛の拍手や声が起こっていたのが S I S らしくて良かったです。（12 年生保護者）

★ S I S 最後のスポーツディ。一目見ようと仕事の移動途中に駆け込みました。運動会っていいですね。ごく普通の競技なのに、気がついたらこどもも大人も思いっきり叫んだり、笑ったり、残念がったり。わが 12 年生の保護者はその中でも気合が入ってました。学年カラーのオレンジのタオルとポンポンを振っての大声援。スカートとイヤリングもオレンジというお母様方の何ともあたたかくほほえましい応援に、ちょっと心があつくなりました。こどもたちは見てくれたのかしら……。？（12 年生保護者 蔦田 和美）

★ 競技は特に練習したわけでもないのに、スムーズに進行出来ていて感心しました。玉入れのボールやゴールが小さく見え、その玉入れを必死でやっている姿がアンマッチだけど微笑ましく感じました。また、「8 年生のリレーはあまり速くないんだ」と聞かされていたのに、速くてビックリ！つい力が入りました。スポーツディをしていただけて良かったと思いました。（8 年生保護者）



11～2月行事予定

11/17 APAC コーラスコンサート 17:00 (箕面市メイプルホール)	12/19 冬季休暇開始
11/20 中高等部秋季コンサート(バンド)16:00	2008年
11/21 中高等部秋季コンサート(ストリングス/MS コーラス)16:00	1/7 SIS 帰国生入試
11/22 SIS/OIS 秋学期終了(通常授業日)	1/8 中等部・高等部授業再開
11/23 インターナショナル・フェア	1/20 SIS 中等部一般生入試
11/27 SIS/OIS 冬学期開始	1/22 SIS 休校
12/5 SIS/OIS 高等部生徒会主催大掃除	1/29-2/3 APAC 男女バスケットボール(北京)
12/11 高等部ホリデイコンサート 18:30 (箕面市メイプルホール)	2/5 SIS 授業参観日
12/12 SIS プレゼンテーション大会	2/9 SIS 高等部一般生入試
12/18 SIS/OIS 午後休校(11:30 授業終了)	

編集後記

表紙写真のあの一瞬は、合志先生が偶然シャッターを押したときに起こったそうです。綱引きの綱が切れるなんて誰も想像していなかったでしょう。「Best Photo of the Year」といってもいい写真ですね。インターカルチャーは市販の雑誌とは違いますから、掲載する写真はなるべく公平になるように心がけています。ひとつの記事に対して写真は原則として1枚にするとか、なるべく多くの人が写っているものにするとか、被写体に重複がないかとか考えています。写真を選ぶ作業もまた大変です。今号の運動会の写真は何百枚もの中から合志先生が選んでくださいました。でも下に書いてあるように、この作業を楽しんだと聞いて感心しました。私も仕事を楽しんでいる方だと思っていますが、インターカルチャー編集作業はやはり大変です。(馬場博史)

今年のスポーツディは2回に分けて実施されたため、競技時間も短く盛り上がり欠けてしまったかと言うと、実は「2回も楽しめてよかった。」と、何人もの生徒から聞きました。私はインターカルチャーの編集のため、スポーツディのたくさんの方々の写真を何度も眺めて、その中から載せるものを選びますが、その作業で私はもう一度スポーツディを最初から辿り、3回目を楽しむことができました。(合志智子)

インターカルチャーへの記事・ご感想等は、e-mail で hbaba@senri.ed.jp までお送り下さい。インターカルチャーはバックナンバーも含めて本学園ホームページ www.senri.ed.jp/interculture でもご覧いただけます。また広報センター担当の学園ホームページにつきましてのご意見・ご感想などもお待ちしております。

編集：SIS 広報センター 保護者会だより編集：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

Senri International School Foundation (SISF)

Senri International School (SIS)

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nishi, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055

学校法人千里国際学園 (SISF)

千里国際学園中等部・高等部 (SIS)

大阪インターナショナルスクール (OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話 072-727-5050 FAX 072-727-5055

年間発行予定と主な内容 () は発行時期

春学期	5月号(上旬)	卒業式、入学式、大学等合格状況
	6月号(中旬)	学園祭、教育実習
秋学期	10月号(上旬)	夏の宿泊行事、夏の諸活動報告
	11月号(中旬)	運動会、玄関コンサート
冬学期	2月号(上旬)	オールスクールプロダクション
	3月号(中旬)	入試結果、卒業生へ贈る言葉
他に留学報告、スポーツ結果、各種表彰、授業紹介、生徒会・クラブ活動等		

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。

両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。